

平成23年度社会福祉法人福浜会事業報告

当法人では、はまぼう及び潮の香が障害者自立支援法の新事業体系に移行して一年が経った。はまぼうは生活介護事業に、潮の香は生活介護事業と自立支援事業の多機能型としてそれぞれに出発した。障害者自立支援法成立時に1割の自己負担が発生したため、少しでも負担を減らす目的もあって、それ以降作業に重心をおくプログラムを実施してきた経緯がある。しかし当時に比べ自己負担が減るなど状況の変化もあり、今回の新事業体系への移行を契機として、開所当初の基本方針の柱でも合った「より多くの体験を通して生活の幅を広げていく」ことを反映したプログラムを心掛けていきたいという思いに立ち返った一年でもある。

この移行に伴って県の基盤整備事業の補助を受け、それぞれに増築工事も行われ、平成24年3月に完成。はまぼうの建物は、重症心身障害の方などの雨天時の乗降の際の雨除け対策と新たな利用希望に対応するための場所の確保等を目的として、また潮の香は、自主製品である祭典用軒花の製作場所の確保と自立訓練（生活訓練）対象者の地域移行に向けた生活体験（食事づくりや掃除、洗濯）を行うための部屋の確保を目的として計画を進めた。この計画後に東日本大震災があったため設計変更を行い、それぞれの建物に屋上を設けて避難場所の確保を図ることも、今回の施設整備の大きな目的の一つとなった。安全で安心して活動ができるような環境を今後も心掛けていきたいと考えている。

一方国の動きとしては、「障害者権利条約」（平成18年に国連で採択）や国と障害者自立支援法訴訟原告との間で結ばれた「基本合意文書」（平成22年1月）を指針に、障害者自立支援法の廃止と新法に向けて「障がい者制度改革推進会議」が開催されてきた。平成23年8月30日に、「障害者総合福祉法の骨格に関する総合福祉部会の提言」（骨格提言）が示され、その後平成22年12月10日、障害者自立支援法の一部改正が行われた。しかし、この骨格提言を受けて行われた内容からはかけ離れた部分もあり、実質は新法に向けたものというより、障害者自立支援法の一部改正ではないかとの批判も出た。

障害福祉サービス事業を利用する人にとっても、私たち事業者にとっても懸案である支給決定について、「障害程度区分を中心とした機械的・制限的な支給決定の仕組みから、個別ニーズを評価して支給決定する仕組み」作りをしていくとしていたことで期待したが、実施に向けた具体的な内容は示されなかった。障害のある人が、その人生を自ら選び、意思決定していく仕組み作りが今望まれているが、一度は断念したかに見えた介護保険との統合の仕組みがそこかしこに見え隠れしているように感じる。

この他、今回の改正では、市町村の基幹相談支援センター設置や支給決定に関わる計画相談の実施等に見られる相談支援体制の強化と、「自立支援協議会」の設置促進・運営の活性化を図るように法律上に根拠を設けたことなどが主な内容として挙げられる。今後、社会福祉法人の役割も、新たな展開が求められてくると思われる。

最後に、この改正で当法人に直接関わってくるのは重症心身障害児（者）通園事業の廃止である。廃止に伴い来年度は、重心の乳幼児や児童を対象にした児童発達支援事業が新たな事業として実施することになる。具体的には、主たる対象者を重症心身障害児（者）として、生活介護事業及び児童発達支援事業並びに放課後等デイサービスを一体的に行う、多機能型（定員5名）として出発する。放課後等デイサービスは、これまでも利用している特別支援学校等に通っている重症心身障害のある児童が対象となるが、児童発達支援事業は重症心身障害のある乳幼児が対象となるため、保育、療育の視点からのアプローチが必要となってくるとともに、医療機関との緊密な連携が、これまで以上に必要となってくると思われる。

平成23年度理事会

開催日	出席者数/ 理事総数	議 題
5/28	5 / 7	1 平成22年度施設及び事業会計の補正予算（最終）案について 2 平成22年度社会福祉法人福浜会事業報告及び会計決算の承認について（監査報告） 3 社会福祉法人福浜会経理規程の改定について 4 送迎及び活動用車両の購入に係る備品等積立金の取崩しについて
9/3	6 / 7	社会福祉法人福浜会評議員の選任につき同意を求めることについて
9/3	6 / 7	1 平成23年度障害福祉推進基金事業費補助金交付決定及びそれに係る入札等の手続きについて
10/12	6 / 7	1 平成23年度基盤整備事業（増築工事）に係る入札参加資格確認審査 2 平成23年度基盤整備事業（施設の増築工事）に係る立会人等の選出
12/17	6 / 7	1 平成23年度基盤整備事業（増築工事）に係る入札報告、歳入歳出予算書 2 平成23年度本部会計及び施設・事業会計の第一次補正予算案について
H24 1/21	6 / 7	1 定款変更について はまぼう、潮の香分場の新事業体系移行に伴う第1種社会福祉事業の廃止相談支援事業、障害児通所支援事業の定款第2種社会福祉事業への追加・字句、語句の訂正 2 市町村指定相談支援事業・松ぼっくり生活介護事業・児童発達支援事業指定申請について
3/24	5 / 7	1 平成23年度障害福祉サービス事業者等の実地指導結果報告について 2 平成23社会福祉法人会計及び授産会計補正予算案について 3 平成24法人及び各事業所事業計画について 4 平成24度法人会計及び施設・事業会計当初予算案について 5 社会福祉法人福浜会経理規程の改正について 6 はまぼう・潮の香増築工事完了について

平成23年度評議員会

開催日	出席者数/ 評議員総数	議 題
5/28	12 / 15	1 平成22年度施設及び事業会計の補正予算（最終）案について 2 平成22年度社会福祉法人福浜会事業報告及び会計決算の承認について（監査報告） 3 社会福祉法人福浜会経理規程の改定について 4 送迎及び活動用車両の購入に係る備品等積立金の取崩しについて
9/3	12 / 15	1 平成23年度障害福祉推進基金事業費補助金交付決定及びそれに係る入札等の手続きについて
12/17	12 / 15	1 平成23年度基盤整備事業（増築工事）に係る入札報告、歳入歳出予算書 2 平成23年度本部会計及び施設・事業会計の第一次補正予算案について
H24 1/21	12 / 15	1 定款変更について はまぼう、潮の香分場の新事業体系移行に伴う第1種社会福祉事業の廃止相談支援事業、障害児通所支援事業の定款第2種社会福祉事業への追加・字句、語句の訂正 2 市町村指定相談支援事業・松ぼっくり生活介護事業・児童発達支援事業指定申請について
3/24	10 / 15	1 平成23年度障害福祉サービス事業者等の実地指導結果報告について 2 平成23社会福祉法人会計及び授産会計補正予算案について 3 平成24法人及び各事業所事業計画について 4 平成24度法人会計及び施設・事業会計当初予算案について 5 社会福祉法人福浜会経理規程の改正について 6 はまぼう・潮の香増築工事完了について

平成23年度はまぼう活動報告

1. 在籍者の状況

平成23年度の定員30名及び定員緩和措置を含めた月別の在籍状況は次の通り

区分	月	23年									24年			合計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
入所		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
退所		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
月末 在籍	男	25	25	25	25	25	25	25	25	24	24	24	24	
	女	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	
	計	35	35	35	35	35	35	35	35	35	34	34	34	

日中一時支援事業デイサービス対象者

区分	月	23年									24年			合計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
入所		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
退所		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
月末 在籍	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	女	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	
	計	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	

在宅重症心身障害者通園事業対象者

区分	月	23年									24年			年間
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
平均 通所者数		4.25	4.26	3.52	3.0	4.05	4.21	3.85	4.05	4.0	4.29	3.81	3.9	3.87

2. その他の利用状況

項目	月	23年									24年			合計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
特実 支習 等生	人員	0	0	4	1	0	0	1	0	0	0	0	0	6
	利用日数	0	0	16	1	0	0	3	0	0	0	0	0	20
実研 習修 ・生	人員	0	1	1	1	6	4	6	1	0	0	1	1	22
	利用日数	0	2	8	4	13	23	6	1	0	0	3	9	69
見 学 者	件数	1	4	1	2	3	0	2	1	0	1	2	0	17
	人員	1	5	2	2	3	0	2	1	0	1	3	0	20
ポテ ライ ンア	延人数	21	36	57	98	32	37	25	34	32	25	27	31	455
	特記				地域交流会									

3. 活動の状況

活動全般について

はまぼうでは、自分がやってみたいと思う活動を、所属するグループにこだわらずに選択する形態を継続してきた。全て本人の意向に沿うことができていないわけではないが、職員の配置が可能な限りは対応し、利用者さんが自分の意思を表現できる環境を心掛けてきた。

3月11日に発生した東日本大震災により経済が停滞し、その影響もあり、ブリヂストンのキャップ分離作業や他の請負の仕事も、一時的に量が減少したが、この地域の企業も少しずつ回復はしてきており、自主製品作りも考慮しながら作業活動を行った。屋外で活動しているグループ（アルミ缶回収・缶つぶし、花の苗や野菜作り）は、今年も職員配置数や地域生活支援事業への支援等により、十分な体制がとれない日もあり、花の苗や野菜作りはボランティアさんにお任せざるを得ない状況にあった。

また、パン・菓子等の製造・販売については、利用者さんが各工程を覚え、積極的に取り組むことができてきた。調理器具にも慣れ、秤を使っての計量や材料作り、袋入れなど、利用者さんが行う場面が増え、毎日の積み重ねの大切さを感じている。地域の学校や役所等へ販売に出かけているが、利用者さんにとって一般の人と触れ合える楽しい時間でもあるようだ。

一方、重心の方のグループでは、昨年度から実施しているリフレクソロジー（足裏マッサージ）とスヌーズレンが定着し、特にリフレクソロジーは、足欲と組み合わせで行い、リラックスした雰囲気の中でリフレクソロジストの方の積極的な関わりを通して、心地良い刺激のある楽しみな時間にもなっているようである。またスヌーズレンは、イルミネーションの光とアロマ、音楽等の組合せで五感を刺激する、とてもリラックスした時間を過ごせている。

その他、利用者さんの希望を取り入れながら、土曜日に実施しているレクリエーション活動も定着し、職員の工夫もあり楽しい時間を過ごせている。はまちゃん会（本人会）主催の行事、グループ活動や個別体験なども、工夫をしながら取り組むことができた。

4. グループ活動報告

らでいっしゅ

グループの主な作業活動は、受注作業・縫製等の自主製品・アルミ缶リサイクル・園芸・外部作業を中心にぼぶりん工房・ふぁーれ・オズグループと3つのグループに別れ行った。外部作業以外はグループのメンバーにとらわれず、利用者さんのやりたい作業を選択し、行っていった。

(1)ぼぶりん工房

①受注作業

ブリヂストンのキャップ分離作業を行う。作業を4工程に分け、それぞれが出来る工程を担当した。必要な利用者さんに対しては補助具を使用するなど、利用者さんが自分で出来ることで自信にも繋がっていった。年間を通して比較的安定した量をもらうことが出来、利用者さんの作業意欲も高まったと思われる。

②さをり織り

さをり織りは個性を大切にしている為、利用者さんが縦糸・横糸の選択、織り方まで本人に任せることでオリジナルの作品を作ることが出来た。織りあがった布は縫製作業によって製品化し、同じものがひとつと無いオリジナルのさをり織りは好評を得ている。

③縫製

さをり織りで織りあがった布の個性を生かせるように考え、携帯入れや巾着・ふくろう根付などの製品に仕上げていった。トートバック・ポーチ・ペンケースなどの製品については、ボランティアさんの協力も頂いた。

また、作る物や生地・ボタンの色を利用者さん自身に選んでもらうことで、自分で仕上げた達成感を味わうことや、製作意欲の向上にもつながった。

④クリスマスツリー

スプレーで色塗りをする担当・飾り付けの担当と利用者さんが別れそれぞれ個性のあるツリーを仕上げることができた。

⑤あんでるせん

クリスマスツリーの土台作りを行った。色塗りは屋外で行い、いつもと違う雰囲気楽しく出来た。

⑥印刷

パソコンが得意な利用者さんが年賀状作りを行った。毎年同じ利用者さんが行っているので、スムーズに実施することが出来た。

(2)オズグループ

外作業が主となる為、夏の猛暑など天候に配慮しながら活動を計画し、缶つぶしなどの自ら選択した作業をそれぞれのペースで行った。

台風の影響によりハウスの損傷が激しかった為、活動内容を変更したり休憩場所を作業棟にてとることが多くなった。

①アルミ缶リサイクル

毎週月曜日福田地区内を缶回収に廻り、缶つぶしを行った。毎週金曜日に缶運搬を行っていたが、業者の都合により火曜日午後に変更して実施。利用者さんの活動としてはプルタブ取り、缶つぶしに作業工程を分けることで作業に幅ができた。不況の影響でアルミ缶の単価が下がり、より高く購入してくれる業者へ運搬先を行った。

②園芸・畑

主にグリーンバンクで頂いた種を育て苗作りを行った。育てた苗は、はまぼうの無人販売やバザーで販売した他、花壇に植えるなどした。今年度も県庁にて花の納品の依頼があり、30個のプランターにて花の納品を行った。園芸は、天候に大きく左右されるので猛暑の夏には活動は難しかったが、バザーや花の時期に合わせて無理の無い範囲で活動を行った。

野菜作りはボランティアさんの協力を得ながら、何種類かの野菜を収穫し、採れた野菜を使い、料理作りや焼き芋・漬物を作り、皆で楽しむことも出来た。

(3)ふぁーれ

請負作業の工程も一人ひとり定着してきたため、作業の進み具合が早くなった。個々に行う数もたくさんできており、ミスも少なくなってきた。途中ミスがあると、気づいて報告することができている。毎日決まった仕事があることで、一日の流れもでき、安定して過ごせるようになった。ほりずみ内職が無いときや、早く内職が終わってしまったときに、代替りの作業として、オズグループと協力し、缶回収や缶運搬を行い、意欲的に取り組んでいる様子がみられた。

(4)外部作業

①コーケン工業

法人内施設利用者6名で、磐田市竜洋にある工場に通い、部品の組み立て作業（金具にゴムをはめる作業）を行っている。

約4年経過したが、仕事にも慣れ、個々の作業スピードも速くなってきた。作業内容がほぼ固定されているので、毎日行うことで、仕事のスピードも上がり、分量も増えてきている。検品も利用者さんが行なうようにしており、一人一人が責任を持ち、大きなミスもなく安定して取り組んでいる。

②於保老健施設・さくらの苑

各施設とも週1回、シーツ交換を行ってきた。それぞれが協力し合いながら、仕事に取り組んでいる。慣れてきていることもあり、雑に仕事を行う場面もないわけではないが、そのつど伝えていくことで、ひとりひとりがきちんと仕事をしているという意識を持って取り組めるようになった。時間内に、スムーズにシーツ交換ができる方法を職員と考えながら、取り組むことができていた。

さくらの苑については、職員が付き添わずに行っている。利用者さん3名と、少ない人数での作業だが、困った時には職員に聞きながら皆で協力をして取り組むことができています。

(5)販売 (ぼぷりん工房・オズグループ)

出来上がった製品・苗等は、はまぼう前の無人販売や地域のバザー、そるとぼっと販売所、観音寺販売、アプレゲール、お茶の山大園、iプラザで販売した。地域との関わりを深めるためにも作品展覧会などに積極的に出展することで、意欲的に製品作りができた。地域のバザーでは、縫製品・クリスマスツリーともに売り上げは上々で、特にさをり織りの携帯入れとふくろうの根付けは、好評でぼぷりん工房の看板製品となっていた。苗・野菜等も無人販売や地域のバザー等で好評であった。

その他の活動について

(1) グループ活動

＜朝・帰りのミーティング＞ (ぼぷりん工房・オズグループ)

- ・ 進行は曜日ごとに当番を決め、利用者さんが主体となり、やる気をもって行えた。
- ・ ミーティング後にラジオ体操を実施し、体を軽く動かすことで作業活動にスムーズに移ることが出来た。

＜グループ活動＞

- ・ 今年度はオズグループ・ふぁーれが合同で活動することも多く、外出でアクティ森へ行きバーベキューや川遊びを行った。また、料理作りではカレーを作ったり、畑で収穫した野菜でバーベキューや焼き芋なども行い楽しむことが出来た。ぼぷりん工房では、浜岡の原子力博物館の見学や磐田市内のバイキングレストランでの食事、お菓子作りなどで楽しんだ。
- ・ 宿泊体験は3グループに分かれ、それぞれの希望にあわせ、活動することが出来た。

(2) スポーツ等の個別活動

今年度よりスポーツ体験を「スポーツ等の個別活動」とし、スポーツ体験に限らずに料理作りや買い物などの生活体験を含めた活動を、少人数で個々の希望に合わせ、相談しながら実施した。それぞれの利用者さんが体を動かしたり、日頃出来ない生活体験をする事が出来た。(希望者のみ実施 実施状況 表1)

(3) 個別体験

本人の希望等で外出先を決め出掛けた。他のグループとも協力し合いながら行い、それぞれの希望したものや体験させたい外出が実施出来、楽しめた様子であった。(希望者のみ実施・実費徴収 実施状況 表2)

表1. スポーツ体験等の個別活動

実施日	内 容 (行き先)	参加利用者人数	職員人数
6月23日(木)	ボーリング (袋井グランドボウル)	5名	2名 【実習生】1名
8月 8日(月)	プール (竜洋B&G)	4名 (内、他グループ利用者3名)	2名
8月24日(水)	プール (竜洋B&G)	2名	1名 【実習生】1名
10月18日(火)	マレットゴルフ (浜岡)	2名	2名
11月15日(火)	ハイキング (森町かわせみ湖)	1名	1名
11月29日(火)	ウォーキング (エコパ ウォーキングコース)	5名	2名 【実習生】1名
12月20日(火)	買い物 (イオンタウン)	2名	1名 【実習生】1名
2月 3日(金)	料理作り (オムライス・ サラダ・デザート)	3名	1名

表2. 個別体験

実施日	内 容 (行き先)	参加利用者人数	職員人数
6月15日(水)	潮干狩り (浜名湖)	3名	2名
6月21日(火)	バイキング・買い物 (磐田市内)	2名	1名 【ボラ】1名
7月 7日(木)	フェイシャルエステ・食 事・買い物 (磐田市内)	1名	1名
9月13日(火)	プール・食事 (湖西市)	3名	2名
10月22日(土)	ぽんぽこツアー (長野県→山梨県)	3名 (内、他グループ利 用者2名)	2名
11月 4日(金)	豊橋動植物公園 (湖西市)	5名	4名
11月14日(月)	買い物・食事 (静岡市)	3名	2名
11月15日(火)	かわせみ湖周ハイキング (森町)	2名	1名
11月17日(木)	カラオケ・買い物 (磐田市内)	3名 (内、他グループ利 用者1名)	2名

4. グループ活動報告

カラース

グループの主な作業活動は、クッキー作り・紙工芸・粘土細工・パン作り・菓子作りを中心に、あにまあと・工房ぱおの2グループに分かれて行った。

(1)あにまあと

[1]概 要

利用者数 12名 (介護給付費制度利用者4名、通園事業B型利用者7名、日中一時1名)
 <車椅子11名 うち全面介助者9名、気管切開・ネブライザー吸入・経管栄養
 1名、胃瘻造設・経管栄養・鼻腔及び口腔吸引1名、気管切開・経管栄養・
 鼻腔及び口腔吸引1名、経管栄養1名>

[2]活動のまとめ

重複障がいのある利用者さんを中心に、感覚・色彩等を感じる事の出来る作業を多く取り入れながら、体調に留意しつつ無理のない範囲でグループの皆が協力し合える活動を行った。

[3]主な作業内容 ～ クッキー作り・紙工芸・粘土細工 (小麦粉粘土) ・手芸品

①クッキー作り

利用者さんを中心にそれぞれ自分の出来る工程を担当し、バザー等での販売、バレンタインデーやホワイトデー等、季節に合わせご家庭に向けて注文販売も行った。利用者さんの活動ペースに合わせる事が難しく忙しい時期もあったが、利用者さんにとっては無理なく活動できたと思う。

a. 生地作り工程

バター・砂糖の攪拌、鶏卵の攪拌、生地を練る作業を行う。バター・砂糖の攪拌と生地を練る作業は、材料をビニール袋に入れることで、その感触を楽しみながら作業することが出来た。

b. 型抜き・成型・焼く工程

成型は主に重複障がいを持った利用者さんが行った。生地をラップに包みテーブルの上や手のひらで平らにするが、程よい厚みで出来る様になった。型抜きを自分の仕事として前向きに取り組む利用者さんの姿もみられたが、厚みにばらつきもあり注意を促しながら進めた。

c. 袋準備・袋詰め工程

シール貼り、クッキー・乾燥剤の袋詰め、袋綴じを流れ作業で行った。袋詰めは補助具を、袋綴じはシーラーを使用して、重複障がいのある利用者さんを中心に職員と一緒にいった。袋綴じは職員の声掛けで確実にを行うことが出来た。

透明な袋に飾りリボンは見た目にも良く好評であった。飾りリボンを作る作業ができる利用者さんがいて、仕事の幅が広がり喜びとなった様である。

②紙工芸

色彩を感じることの出来る作業を行うために折染めを取り入れ、それをノート・鉛筆の製品にし、紙すきで作った葉とセットで販売した。その他、利用者さんの連絡帳・B5版ノートや妻楊枝入れ、手作り葉、グリーティングカードも販売した。メモ帳も折り染め製品として定着している。

折染めは個々の自由な感性で染めるため個性的な製品が出来上がった。ノート・鉛筆の糊付け作業は、重複障害のある利用者さんに限らず、それ以外の利用者さんも一人で行うのは難しく、大半の人が介助や確認を必要としていた。

紙工芸製品はバザー等で幅広い年齢層の方に購入してもらった事が出来た。

③粘土細工

マグネット製品を中心に製作した。動物や野菜・花・食べ物など身近な物の形をマグネットに貼り付け、ガチャポンのケースに入れ販売しており子供さんに好評である。近隣のお店や利用者さんのご協力によりケースの入手ができた。小さな細工を利用者さんが作ることは難しいが、職員と一緒に、指先や手のひらで平らにしたり丸めたりし、作る楽しさを味わえた。

[4]その他の活動

①朝・帰りのミーティング

毎日、利用者さんが交代で司会をして進行。出欠席の確認やその日の活動内容の確認をしたり、その日の反省・感想等を話してもらった様にした。一日の活動を自分の意思で選択できる利用者さんが増え、あにまあと以外の活動にも積極的に参加する姿もみられた。

②散歩・外気浴・足浴

出来るだけ外の空気に触れられるよう、体調に注意しながらはまぼう周辺の散歩・玄関前での外気浴を行った。利用者さんの数に対し職員の数が少ないため、車椅子利用者のマンツーマン対応が必要となる散歩は一度に全員が出ることは難しく、短時間の交代で出ることとなった。また長い時間外気にあたる疲れしてしまう利用者さんも居たため、散歩を短い距離で済ませたり室内で待っている事もあった。又、歩ける利用者さんが車椅子を押すなど、他グループの利用者さんとの関わりもあり仲間意識の向上が見られた。

冬季は車椅子利用者さんを中心に、足浴（場合によっては手浴）を多目に行い、体を温めると共に全身の緊張を和らげる様にした。他グループからの希望者もあり、リラックスした時間を過ごすことが出来た。鼻歌がとび出す利用者さんもあり、皆喜んでいった。

③タオルたたみ

袋井整体さんから依頼されているタオルの洗濯とたたむ仕事も定着してきている。枚数が多く、利用者さんは乾いたタオルをたたむ工程のみの関わりになっているが、タオルの感触や仕事の充実感を感じている様子がみられた。

④レクリエーション

利用者さんから自分のやりたいものを聞いたり、職員が出した複数の選択肢の中から利用者さんが選んで行った。普段あまり体を動かす機会の少ない人たちが多いため、ペットボトルボーリングやトランプ・百人一首（坊主めくり）・すごろくゲームなど室内でも楽しめることを行った。映像や音声を楽しむビデオ鑑賞・CD紙芝居も内容を毎回利用者さんに選んでもらい、リラックスした時間を過ごしながら楽しむことが出来た。

⑤音楽療法等

月1回、障がいの程度等に合わせた内容で行って頂いた。あまり目にしたことのない珍しい楽器にも触れながら、ゆったりした環境の中で楽しく参加することが出来た。

月に一度の「ともしびコンサート」も恒例となっており、演奏を聴いたり皆で楽しく歌うことが出来た。

⑥外出・外食・納涼会

ボランティアさんの協力を得ながら、グループ外出（竜洋海洋公園・5月）、納涼会（はまぼう・8月）、クリスマス会（はまぼう12月）を行った。クリスマス会は利用者さんにとっても楽しみのひとつとなっている。年度末の食事会（はまぼう・3月）は喫茶店からお弁当を注文、いつもと違う雰囲気味わえることは、利用者さんの食欲をますます増進させている。

納涼会は今年で7回目となり、グループの恒例行事となっている。夕食のカレー作りや花火など夜までの活動であるが、事故もなく皆楽しそうに参加出来ていた。

⑦個別外出

- ・磐田市内ドライブ（図書館・福田港）… 1名 6月
- ・磐田市内ドライブ（竜洋海洋公園方面）… 1名 6月
- ・新造形創造館（豊田）… 1名 7月
- ・名古屋港水族館～電車体験～（名古屋）… 1名 9月
- ・アクティ森～草木染め体験～（森町）… 2名 10月
- ・浜松科学館～電車体験～（浜松）… 1名 11月
- ・遠鉄百貨店～電車体験～（浜松）… 2名 12月
- ・誕生日買い物・法人内施設訪問（そるとぼっと・松ぼっくり）… 1名 1月

⑩ふれあい体操

月2回、スポーツグラマーによる柔軟体操やマッサージ・触感覚運動・関節運動を行い、心身の緊張をほぐしリラクゼーションを促した。リハビリを兼ねたゲームや工作は利用者さんが楽しんで参加することが出来た。職員は、利用者さん個々の障害程度に合わせた体操の仕方や注意点等を教えてもらい対応した。

⑪リフレクソロジー

月3回、1回に3人（一人約30分）リフレクソロジストによる足裏マッサージ（施術前には足浴を実施して足を温めておく）を受け、リラックスした時間を過ごす事ができた。足裏刺激が良い効果となっている。

⑫食事

個々に食べやすい形を探り、刻み食（みじん切り・小口切り・一口大）やミキサー食の対応をした。

(2)工房ぱお

[1]主な作業内容

①パン作り

- ・各利用者さんが「買出し」「計量」「粉ふるい」「袋入れ」「販売」等に取り組んでいる。
- ・現在、15、6種類を作成。冷凍生地を利用したパンは今年度は職員体制の都合により販売できなかった。

- ・定期販売 火 … 第1 東海文化専門学校 第2・4 磐田市役所 第3 福田支所
水 … 第1週以外→喫茶ペンギン（iプラザ内）
木 … はまぼう・そるとぽっと販売
金 … 東海福祉専門学校
- ・各種バザー、地域交流会にも出品した。

②菓子作り

- ・一人ひとりが、作業の手順を覚え、自分の得意分野を主に担当しながら作業できていた。また、新たな作業工程にチャレンジした利用者さんも数名見られる。シーラーによる「袋しめ」は、職員と声を掛け合いながらであるが、袋入れは、ほとんどの利用者さんが一人で行なうことができている。また、袋の準備（シール貼り・スタンプ押し）も以前よりスピーディーに仕上げられるようになっている。
- ・「クッキー」「パウンドケーキ」「マドレーヌ」「シフォンケーキ」「ブラウニー」「くるみとレーズンのカップケーキ」「チョコチップマフィン」
- ・「黒ごまプリン」「レアチーズケーキ」「ゼリー」（夏季限定）
- ・各種バザー、地域交流会での販売のほか、ホワイトデーギフトとして注文販売も行なった。また、「バレンタインギフト」を今年度初めて販売してみた。
- ・新商品として「ガトーショコラ」「スイートポテト」の販売を始めた。

③内 職（ブリヂストン）

自分たちで協力しながら作業を進めることができ、昨年より「準備や片付けをする」という意識も強くなって積極的に取り組むことができるようになった。

[2]その他の活動内容

個別外出

グループの方同士でなく、他のグループの利用者さんや職員とでかける人もあり、普段とはまた違った楽しい外出となったように思われる。

7月	磐田市新造形創造館、フュージング体験	1名
9月	名古屋港水族館&電車体験	1名
10月	ぽんぽこツアー参加	2名
	遊園地パルパル	2名
11月	浜松科学館	1名
	「シダックス」カラオケ&外食	1名

グループ活動

9月	宿泊体験	昨年好評だった「竜洋オートキャンプ場」を利用した宿泊体験を実施した。今回は、BBQを計画し、いつもと違う雰囲気の中でみんな楽しむことができていた。コテージ内のお風呂を利用し、各々が一晩をテレビを見たりお喋りを楽しむことができていた。
3月	グループ外出 「アクティ森」 草木染め体験&外食	今年は、体験ができるような外出を計画。みんなで、草木染めを体験した。各々が型や、色、レイアウトを自分で考え、職員の力を借りながらも最後まで作りあげることができた。味のあるバンダナが出来上がり、思い出に残る外出となったと思われる。

5. 土曜日レクリエーション

土曜日の通所日を利用して、レクリエーション的活動を、参加希望を募って年間11回行った。
通所者が全員参加できる企画が多く、担当職員の特徴も出ており、工夫したお菓子や食事作り・工作・外出などが企画され、皆で楽しむことが出来た。

日付	内容	担当者
4/23	プラパン工作	坂本めぐみ
5/14	お化けコップ作り	村松孝彦
7/9	冷やし中華・プリンアラモード作り	中村恵美子・本田陽子
8/20	水遊び	鈴木千波
9/3	かき氷作り	酒井浩子
9/17	ミニ運動会	田中友梨・伊能晃代
10/1	カラオケ・外出(鶴ヶ池)	伊藤流美子
11/5	芋きんちゃく作り	伊部美歩子
12/3	おしるこ作り	辻堂剛矢
1/14	外出(竜洋海洋公園・リフレU)	加藤将記
3/26	カレーライス作り	伊能晃代

6. 行事・バザー報告

月	行事等	担当	参加者		バザー等	担当	参加者	
			はまべ会	ボラ			利用者	はまべ会
4	年度始めの会(1) 個別面談	鈴木千 各G	○					
5	個別面談	各G	○		磐田学園わかばまつり	本田	○	
6	ウォーキング() 大掃除(11)	酒井、伊能 環境美化委員会	○ ○		磐田北高校文化祭()	酒井	○	呼びかけ
7	開所記念日(1) 地域交流会(23)	◎伊藤(高橋) ◎加藤、坂本、村松 本田	○	○	地域交流会不用品バザー			○
8					ともしびサマーコンサート()	伊部		
9					天方小バザー(中止)	ばお(川島め)		
10	地域清掃	環境美化委員会			さわふれ交流会() ふれあいまつり(福田 23)	ばお 村松【松】	○	○
11					福田文化協会文化祭バザー 聖隷クリスティー大学祭(不参加) フェスティバル豊田() 光る子まつり(19) 浅羽夢広場()	不参加 伊能 加藤 辻堂 【そ】+か 小澤さん依頼	○ ○ ○ ○	呼びかけ 呼びかけ
12	大掃除(2) ヤマハ労連観劇()	環境美化委員会 伊部	○ ○	○	ふれあい作品展() 縁側作りバザー(3) 施設製品即売会(5)	坂本【そ・松】 【そ】	○	
1	新年会・成人を祝う会(6)	辻堂・村松						
2								
3	年度納めの会 ・感謝の集い(下旬)	ボランティア係		○				
《備考》 ・グループ活動: 外食、外出等随時実施。(ボランティアさん参加) ※料理作り・スポーツ; 各活動グループ毎に随時実施。 ・個別体験; 個人の希望に沿って時期・場所等を設定。 ・半日の行事を設定: 担当田中					《毎日販売》 ・アプレ・ゲール ・お茶の山大園 ・そるとぼっと販売所 ・iプラザ 《その他販売》 ・磐田市役所、市役所福田支所、観音寺販売 東海福祉専門学校、東海文化専門学校 ・ドルチェ倉庫販売(3、6、9、12月)			

7. 音楽活動

(1)音楽療法

月に一度、2グループに分かれて実施。音楽を通し、個々の障がいに合わせた工夫がされていた。参加者は、自分で選んだ楽器を使ったり、グループ演奏など、普段の活動では味わうことのできない体験ができた又、本人のペースに合わせた環境の中で実施する事ができた。

(2)ともしびコンサート

音楽活動をしているNPO法人に依頼し、月1回、季節感のある音楽（歌）や楽器に親しむ機会を設け、室内コンサートを開催していただいた。童謡からクラシックまで幅広い音楽に触れられる機会でも参加者は、演奏を聴いたり皆で歌ったり、楽しく過ごすことができた。

8. 環境美化委員会

(1) 2カ月に1回の委員会は、開催できないときもあったが、必要に応じて改善点等を話し合うことができた。細かい点についてはもう少し話し合いを行い、再確認をしていく必要があった。建物内外の身近な部分で見落とされている場所があるため、日頃の環境美化についても職員一人一人が意識して取り組めるよう、委員を中心に呼びかけをしていく必要がある。また、室内、倉庫などの整理整頓も日頃から心がけていく必要がある。

毎日の清掃については、職員一人一人が、美化につとめ、協力しながら行う事が出来ているが、細かい部分については、引き続き呼び掛けを行い周知徹底をしていく必要がある。

(2) 大掃除については、年度始めにアンケートをとり、希望日に合わせ参加の呼びかけをした。家庭へのお知らせや準備、事前に担当場所等を知らせたことで、戸惑う事なく進めて行くことができた。都合で参加できない家族の方もいたが、別日を設定することで参加する事ができた。

今年度も冬季大掃除を金曜日に実施した。通常日課ということもあり（職員も含め）、全体的に参加者が少なかったが、それぞれ協力しあい、全体的にスムーズに行う事ができた。

(3) ゴミの分別については、徹底されつつあるが、まだまだ曖昧なところがある。再度確認し、より細かい部分にまで注意が行き届くよう、伝えていく必要がある。

また、クリーンボックスを設置することで、大きなゴミの処理もスムーズに行うことができた。

9. 安全委員会

(1)利用者の方の安全確保

- ・10月・3月に委員会、内部研修、事故防止・再発防止策検証チェックを行い、事故防止に努めるよう情報収集、安全管理体制の見直しを行った。
- ・「事故報告書」「ヒヤリハット報告書」の集計結果については、別紙参照。

(2)施設設備（環境）の保全管理

- ・設備自主検査を9月、3月に実施。
- 不具合箇所 … 詳細については、建物・設備等点検結果表ファイル参照。

(3)安全運転管理

- ・春、秋の街頭指導。
- ・事務局だよりの連絡。

(4)緊急事態への対応

- ・緊急事態（事故）に対しては、各職員がマニュアルに従い、速やかに対応出来ていた。
- ・今後も、マニュアルの検討を重ね、分かり易く対応しやすいものにしていく。

10. 生活・保健衛生委員会

(1)健康診断及び記録について

健康診断は春と秋に実施。検査当日の欠席者については、レントゲン撮影は個々にかかりつけの病院等へ行き全員実施した。検尿・検便は随時はまぼうで行い、保菌検査は職員、クッキーやパン作業に関わる利用者さん、食事介助に関わるボランティアさんにも毎月実施した。

血圧については、健診当日は慌しさの影響を受け正しい数値が測定できない場合もあるため日を改め測定した。

健康診断の結果については、嘱託医に確認・捺印を頂き各家庭への報告をした。必要に応じて家庭への電話連絡も行った。（通院については家庭にお任せした。）

記録については、個人表、一覧表、嘱託医訪問記録、検査結果等、随時記入するようにした。

服薬は変更があったら随時書き換え記録するようにした。

(2)体重測定について

毎月月初めに実施した。連絡帳に体重表（カード）をはさみ、家庭に連絡し確認印をいただいた。測定の結果を健康チェックの目安とし、食事量を加減したり通院時に持参する家庭もあった。

(3)機関誌について

保健だよりは、必要に応じて随時《お知らせ》として発行した。

ノロウィルスやインフルエンザについては、緊急のお知らせ（情報公開や予防法）等を各家庭に配布し、注意を呼びかけた。

(4)衛生面について

身だしなみについては、連絡帳等で家庭と連絡をとり対応してきたが、まだまだ改善の必要な人がいるので、引き続き本人や家庭に働きかけをしていく。

ハンカチ所持を呼びかけていることで、個人での所持率は高まったが、今後も声掛けが必要。

トイレでのスリッパへの履き替えが定着していない人もいるので、今後も対策が必要。

寝具については布団、毛布の天日干しがあまりされていなかった。

(5)病気予防について

食中毒や風邪・インフルエンザの予防のため外から帰った時や、食事の前にはうがい・手洗いの声掛け・マスク着用を促した。そのため職員が率先して行なう姿勢が多くみられた。

ノロウィルスに関して汚物処理のための消毒薬(3ヶ月ごとの交換)の留置、週一回施設内の消毒薬での拭き掃除を徹底した。

部屋の換気や加湿器の使用を心がけ衛生面に注意した。

感染症についての職員研修を行い、施設内での感染予防を促した。

(6)防虫防鼠について

環境美化委員会にて大掃除やバルサン実施。

(7)日用品・医薬品について

トイレットペーパーやボックスティッシュ等、在庫確認の上、随時発注するようにした。医薬品については、使用期限の確認と在庫チェックの上、必要に応じて発注・補充した。

個人で昼に服薬がある利用者さんについては、服用の確認と声掛けを行った。

(8)着替えについて

最近では、利用者さん一人ひとりが自分の着替えを持ってきているため、あまり貸し出すことはなかった。

(9)歯磨き・うがいについて

各自で食後の歯磨きやうがいを行っていたが、全員が出来ているわけではない。うがいのできない利用者さんもいるが、食後にお茶を飲むだけでも良いと思う。

仕上げ磨きについても習慣づけられている利用者さんはいるが、全員に目が届いているわけではないため、今後も声掛けをしていく。

11. はまちゃん会（利用者さんの代表者会）

土曜日の通所日を利用して10回開催した。

恒例となったはまちゃん会主催でのクリスマス会や豆まき会もスムーズに企画・実施する事ができ、利用者さんの自信や楽しみにつながった。また、今年度はクリスマス会を平日に行ったことで、今まで参加できていなかった利用者さんも参加することが出来、皆で楽しめた。

第1回 4/2(土)	今年度の企画について	第6回 11/26(土)	クリスマス会について (その2)
第2回 5/7(土)	地域交流会について	第7回 12/22(木)	クリスマス会
第3回 5/28(土)	豆まき会について	第8回 1/7(土)	クリスマス会反省会
第4回 7/30(土)	地域交流会の反省	第9回 1/21(土)	豆まき会
第5回 10/22(土)	クリスマス会について(その1)	第10回 3/24(土)	豆まき会の反省 今年度の反省

12. 内部研修

水曜日午後の時間を利用し、年間計画に従い研修担当者で起案を立て内部研修を実施した。

平成23年度は、法人全体研修5回（感染症対策研修1回、危機管理・防災について1回含む）、自己評価に関する研修2回、出張報告他、年間9回の研修活動を実施することができた。地域生活支援との兼ね合いもあり、職員全員参加は難しくなっている。

また、昨年度より人事交流研修を取り入れているが、今年度は、各施設の職員体制や利用者の方の状態の兼ね合いで、実施は難しかった。

来年度も定期的に研修を実施して職員意欲向上に努めていきたい。

日付	内容	担当者
4/6	出張報告	村松、坂本、鈴木
6/1	自立支援協議会について、支援センター・ケアホーム・地域生活支援事業の事業報告、運転について、理事長の話し (合同研修会)	研修担当、加藤
6/29	東日本大震災 災害ボランティアの報告についての講演 (合同研修会)	研修担当
8/3	東日本大震災 東北視察の報告 グループディスカッション (合同研修会)	研修担当
9/7	出張報告	本田、伊藤、辻堂、酒井
11/2	職員紹介、感染症対策、松ぼっくり長の話 (合同研修会)	生活保健委員会
2/29、3/14	自己評価話合い (2回)	研修担当
3/31	自己評価各施設発表、危機管理・防災について、グループディスカッション、理事長の話(合同研修会)	安全委員会(加藤) 研修担当

13. 相談・福田チーム検討会

施設等で受ける相談については、リーダー・地域生活支援担当者を中心に、市町指定相談事業所・地域療育支援センターなどの関係機関と連携をとりながら、地域からの相談に応じる。内容は、通所に関する相談・学齢児の長期休暇時や放課後の支援相談・進路相談、在宅者への支援等。

また福田地区在宅者のケース検討会(福田チーム検討会)に参加。地区内の各機関が一致した認識をもつことができ、協力して地域生活支援を行っていく土台作りの場となっている。今年度は5回実施した。

14. 障害者就業・生活支援センター連絡会議

中東遠地区就業促進協議会は、障害者の就業を促進するために、教育関係機関、労働関係機関、福祉関係機関、企業等が連携協力を図ることを目的として開催された。また、同時に障害者就業・生活支援センターが主催する連絡会議も開催され、法人単位で参加した。

15. 中遠地域自立支援協議会

中遠地域自立支援協議会は、磐田市及び袋井市が地域生活支援事業実施要綱(厚生労働省通知)に基づき、障害福祉に関するシステムづくり(相談支援事業等)のため、関係機関の連携強化、社会資源の開発・改善等を推進する目的で設置し、幹事会、代表者会、作業部会(専門部会)をもって構成されている。

中遠地域自立支援協議会への参加については、法人全体で担当職員を決めて、その職員を中心に必要に応じて職員も参加する方法を取っている。作業部会(精神部会、知的・身体部会)に参加するとともに、知的・身体部会では、「乳幼児期」「就労」「地域生活支援」の内、「就労」「地域生活支援」専門部会に参加、そして「地域生活支援専門部会」では、6つの課題別検討会～「グループホーム・ケアホーム」「ショートステイ」「重心の在宅支援」「相談支援事業から見える在宅支援」「送迎サービス」「余暇支援」～にそれぞれ積極的に参加している。次年度は、自閉的傾向のある方や行動障害のある方に関する検討会を新たに設け、当法人が担当となることが決まった。また「重心の在宅支援」課題検討会についても、これまではまぼうが県の重心在宅支援の会議や県ネットワーク会議等に関わってきていることもあり、次年度からはまぼうも共同で担当施設となった。さらに、はまぼうが児童発達支援事業及び放課後等デイサービス事業も実施することから、「乳幼児期」専門部会に参加していくこととなる。

16. 重症心身障害児(者)の在宅支援に関する会議

今年度は、新たに重心ケアマネジメント養成研修も加わり、下記の会議に参加。重心ネットワークは、はまぼうがまとめ役となり、西部地区相談支援事業所の協力の下、静岡県西部地区ネットワーク会議を開催。福祉・医療・教育・当事者団体などの各分野から多くの方が参加し、次年度に向けては、来年度、各地区の育成会、県や市町の行政機関も交え、在宅支援サービスの充実に向けた取り組みを始める。

静岡県主催：「重症心身障害児(者)在宅支援推進連絡調整会議」

「重心看護従事者や介護従事者の養成研修」

「重心ケアマネジメント養成研修」

県知協主催：「重心ネットワーク会議」(県知協主催はH23年度まで)

地域療育支援センター 結 平成23年度 事業報告

1 コーディネーター活動状況

(1) 登録者への援助業務

電話 実人員 55人

家庭訪問 実人員 67人

来所 実人員 27人

(2) 主な援助内容

福祉サービスの利用援助・情報提供

権利擁護のための必要な支援

家族支援

社会資源を利用するための支援

(3) 連絡調整会議 13回

参加者 当事者・家族・後見人・民生委員・居宅介護事業所・特別支援学校

地域包括支援センター・障害福祉課・社会福祉課・社会福祉協議会・施設支援員

就労支援センター・相談事業所

(4) 圏域の課題として挙げたもの

学校の長期休みの支援

発達障害の方の日中の活動場所の不足（地域活動支援センター）

発達障害の方の就労

行動障害の方の受け入れ場所の不足

グループホーム・ケアホームの不足

放課後に利用する場所が地域により偏りがあることと、合わせて送迎の課題

ショートステイ先の不足

ショートステイ等の利用に送迎があるとよい（保護者の高齢化）

2 在宅支援訪問療育等指導事業

実施回数 140回

担当職員 看護師 3名 指導員 17名

3 在宅支援外来療育等指導事業

実施回数 80回

担当職員 看護師 4名 指導員 11名

4 施設支援一般指導事業

実施回数 0回

平成23年度そるとぼっと活動報告

1. 在籍者の状況 平成23年度の月別の在籍状況は次の通り（定員20名）

区分		23年										合計		
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1		2	3
入所		20	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21
退所		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
月末 在籍	男	17	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	/
	女	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	
	計	20	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	

【在籍者障害程度区分】 区分6→3名、区分5→3名、区分4→10名、区分3→4名、区分2→1名(61歳)

2. その他の利用状況

月		23年										24年			合計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
特実 支習 等生	延人員	0	0	0	0	0	0	4	4	0	0	0	0	8	
	利用日数	0	0	0	0	0	0	4	4	0	0	0	0	8	
実研 習修 ・生	延人員	0	1	0	0	2	2	2	3	0	0	0	0	10	
	利用日数	0	1	0	0	2	2	2	3	0	0	0	0	10	
見 学 者	件数	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	4	
	人員	2	0	0	0	0	0	0	3	0	0	2	0	7	
ポテ ライ ンア	延人数	4	0	3	8	1	11	10	0	4	7	2	20	70	
	特記				地域交流会							ボラン ティア感 謝状			

3. 活動全般の状況

新しく3名の利用者さんが加わり、21名で活動を進めた。生活の変化に弱い利用者さんが多いため、なるべく利用者さん同士がお互いに影響を与え合わないよう配慮した。作業棟を作り活動場所を分散させ、3つのグループに分かれて活動したことで、グループ毎に特色のある活動を展開していける事を確認できた。加えて、グループ間に壁が出来てしまわないよう、グループを超えての支援体制や情報の共有化を意識した。

作業は、ブリヂストンの分離作業、割箸の袋入れ、ゴムのバリ取り、ポスティングといった受注作業と、自主製品作りやお茶の注文販売と販売所での自主製品やパン、クッキー等販売を例年同様行った。作業以外の活動では、毎週車での外出や公園等をウォーキングをしながら体を動かす機会を日常的に設けた。土曜日に実施してきたレクリエーションは、利用者さんの人数も増え個々に楽しめる内容が異なってきたため、途中からグループ毎の活動に組み込んで行くようにした。

その他に宿泊体験や個別体験、水泳、ボーリング、カラオケ、調理、音楽鑑賞等を実施した。作業を継続することで落ち着いて過ごせる利用者さんもいれば、作業を苦手とする利用者さんもいるため、個々が充実して過ごせるように、次年度は活動の内容に幅を持たせるようにしていきたい。

I. 作業活動について ~グループに関係なく利用者さんの希望する(得意とする)作業を行った。

1. キャップ分離作業(ブリヂストン)

部品をキャップ、カバー、ウレタンに分離する作業。各グループに得意とする利用者さんがいるので、その人たちを中心に継続して取り組んでいる。

2. 割箸袋入れ(藤本商会)

紙のさやに割箸を入れる、それをビニール袋に入れる、爪楊枝を入れる、ビニール袋を閉じる、お手拭きをポケットに差しこむ、という工程があるが、利用者さんができる工程を分担して行っている。

3. ゴムのバリ取り(ゴトウ加工)

成型したゴム部品をばらし、余分なバリを取り除く作業。切り込みを入れることで、障がいのある重い方でも参加できる。年度始めは仕事が無かったが、後半になり安定して入荷するようになった。他の作業と組み合わせて行った。

4. ポスティング(アドポスティング)

2ヶ月に1~2回、磐田駅南地区に出かけ配布物をポストに投函する。天気に左右されるが、気分転換にもなり交通量の少ない地域は、散歩を兼ねながらなるべく多くの利用者さんが交代で参加できた。

5. キャンドル作り(自主製品)

主に材料のロウを砕いたり、砕いたロウを型に入れる工程で参加し、手作りのキャンドルを作った。きのこキャンドルや可愛い物に人気があった。器に利用者さんの絵をワンポイントで飾り付けた新しいキャンドルを作成した。

6. ポストカード作り(自主製品)

パソコンのペイントを使い、こつこつとクリスマスカードをはじめ季節に合ったカードを作成。今年度は、他の利用者さんの絵画をスキャンして新たなカードも作成した。

7. ハンガーモップ作り(自主製品)

ワイヤーハンガーに利用者さんのセンスでコツコツと毛糸をくくりつけ、成型した後目鼻をつけて表情豊かな「ハンガーモップ」が出来上がった。

8. エコビーズアクセサリ作り(自主製品)

利用者さんが描いたり色付けしたペットボトルをオーブンで焼きビーズを作り、ストラップやプレスレットを作成した。

9. お茶注文販売

新茶、水出し煎茶、年末年始のシーズンに注文販売を行った。

10. ジャム作り

ブルーベリーを仕入れ、ジャムを作って注文販売をした。

11. 製品販売

特にパン販売は好評で定着してきたが、事情により年度末になって販売が中断してしまったことはとても残念だった。iプラザの委託販売では、少しずつだが継続して売上げがあった。

II. 作業以外の活動について

1. 施設行事

① ファミリーウォーキング(5/14)

家族と一緒にエコパを散策し、みんなで弁当をいただく。(家族16名参加)

② 宿泊体験 (8/5~6、8/26~27、9/9~10、9/22~23)

希望者20名を4グループに分け、内19名がそるとぼつとに宿泊した。大衆浴場に出かけたり、外食したりして楽しく過ごした。

③ 流しそうめん(8/20)

家族と一緒に、駐車場で流しそうめんを行う。葡萄、プチトマト、プチゼリー、菓子も流して楽しむ。(家族15名参加)

④ クリスマス会(12/21)

歌やプレゼント、ケーキのデコレーションを楽しむ。後半はそれぞれの利用者さんが楽しめるように別のプログラムで過ごした。(民生委員さん3名参加)

⑤ 新年(成人)を祝う会~(1/7)

今年の抱負を話し、新成人2名を皆で祝う。後半は初詣に出かける。

⑥ ボランティア感謝の会、豆まき(1/7)

ボランティアさんに皆で感謝の気持ちを伝えて記念品を渡す。後半はボランティアさんと一緒に豆まきを楽しむ。

2. 個別体験

利用者さんの希望を確認し、楽しめるような内容を計画して少人数で出かけた。

- ・ 6 / 3 ガーデンパーク・ウォット(浜名湖) 4名参加
- ・ 10 / 17 遊園地パルパル(舘山寺) 2名参加
- ・ 10 / 25 浜松動物園・遊覧船(舘山寺) 2名参加
- ・ 11 / 4 ガーデンパーク・遊覧船(舘山寺) 2名参加
- ・ 11 / 25 フルーツパーク・みかん狩り(都田) 3名参加
- ・ 2 / 14 イチゴ狩り・お買物(掛川・磐田) 4名参加

3. 料理作り

主に土曜日のレクリエーションの中で、ホットケーキ、カレーライス、鈴カステラ、茶巾絞り、ジャムを作って食べた。

4. スポーツ・文化活動

利用者さんの希望を確認し、水泳(3名)、ボーリング(6名)、カラオケ(9名)をそれぞれ個別またはグループで楽しんだ。

5. その他の余暇活動

創作活動で壁面作成や季節に合わせた工作等を行う。体力作りも兼ね外出やウォーキングを毎週実施。はまぼうで行われる「ともしびコンサート」に希望者が参加した。

土曜日のレクリエーションとして、絵画、料理作りや母の日のプレゼント作り、西瓜割り、ミニ運動会等を行ってきたが、利用者さんの数が増え、全体で同じ内容を実施したり、分散して行うことが難しくなったため、途中から各グループの日課の中で実施していく方向に変更した。

4. グループ活動報告

せさみグループ (男性8名、女性1名)

生活面で介助を必要とする方が多く、休息を取りながらゆったりとした雰囲気の中で、個々に合った作業や余暇的な活動を行った。利用者さんに寄り添って無理なく毎日を過ごせた。

①作業活動

ブリジストン分離作業、ゴムのバリ取り、自主製品作り、ポスティングを行った。

②その他の活動

週1回の午後の外出や、創作活動、毎週金曜日の午後に室内やトイレの掃除をした。

③グループ活動

年度途中より、月末にお疲れ様会や誕生会を兼ねてお茶会を行った。

ぱせりグループ (男性4名、女性2名)

利用者さん一人一人にそれぞれ自分の世界があり、拘りが強い方が多いため、皆が落ち着いて過ごせるように、空間を上手く利用して個々に合わせた活動を中心に行った。

①作業活動

ブリヂストン分離作業、ゴムのバリ取り、割り箸袋入れ、ポスティングを行った。

②その他の活動

定期的に外出したり、状況によって散歩に出かけ体を動かした。希望者はともしびコンサートに参加した。

③グループ活動

本年度初の親子新年会を行い、親子で昼食を摂りゲームなどをし、楽しい一時を過ごした。

みんとグループ (男性7名)

新しく出来た作業棟の静かな環境の中で、それぞれのペースで作業や活動に取り組んでいた。前年度周囲の影響を受けて不安定になることが多かった方も、比較的落ち着いて過ごすことができていた。新しくできたグループのため、初めは色々な事が手探り状態であったが、日々過ぎていく中で、食事の配膳や掃除、かめの世話など、それぞれが役割を持ち、担当としてお願いをすると責任を持って取り組む姿が見られた。また、その他のことでも自発的に気が付いたことを手伝ってくれる機会が増えていった。

①作業活動

割り箸袋入れ、ブリヂストン分離作業、ポスティング、自主製品作りを主に行う。また、毎週木曜日ははまぼうへ、ブリヂストンの納品やパンを受け取りに出掛けた。

②その他の活動

週1回の外出や、毎週金曜日に掃除を行う。草取りや古紙等の処分に掛けた。また、ともしびコンサートに参加をした。

③グループ活動

お菓子作りや ららぽーと に買い物に出掛けた。

5. 委員会活動

I. 保健委員会

- ・ 家庭と連絡を取りながら利用者さんの日々の体調の把握をし、毎月体重測定を実施した。健康診断時は、はまぼうに出向き採血やレントゲン検査を実施した。
- ・ 今年度は、初めて施設訪問口腔衛生指導を行った。せさみ、みんとグループで実施し、普段の歯磨きでの心配事や口腔ケアを歯科衛生士さんから指導を受けた。
- ・ 流行性疾患（インフルエンザ等）の発生はなく、必要に応じ保健だよりを発行した。
- ・ 職員合同研修では利用者さんへの支援にも生かされるよう手洗い研修を行い、普段の自分の手洗いの仕方を知ることが出来た。

II. 環境委員会

家族と協力して、6月と12月に大掃除(ワックスがけ)を実施する。6月の大掃除前日にはバルサンを使用し、害虫駆除を行った。夏場は活動中に利用者さんと一緒に草取りを行う。また、施設裏の土手の草刈りも行った。雨が降ると水はけが悪かったため、10月には東側駐車場を整備した。

ごみは分別してはまぼうに協力して頂き、古紙やペットボトルは活動の中で処分に出掛けた。室内の臭いが気になるため、水曜の午後を中心に掃除、手すり等の消毒に気を配った。

III. 安全委員会

利用者さんの人数が増え、事故が起きるリスクも高くなるため、事故予防と職員の安全運転の確認を毎月行なった。事故には至らない内容も「ヒヤリハット」として取り上げることで事故防止の意識を高めた。利用者さんが不安定になってしまい「事故」、「ヒヤリハット」に繋がるケースが多かったが、事故は何れも通院するような大事には至らなかった。その都度再発防止対策を確認した。

毎月、火災または地震を想定した避難訓練と総合防災訓練(11月)を実施し利用者さんと職員の防災への意識を高めた。月2回、防災担当者会議が行われ、防火管理者が出席し、防災マニュアル等の見直しを行った。

10月と3月に設備自主検査を実施。壁等の傷みが増えてきたが、応急処置で済ませ今のところ問題はない。

「ヒヤリハット」13件(8名) 内訳～ 物損(4件)、転落(1件)、所在不明(1件)
飛び出し(1件)、火傷(1件)、その他(5件)

「事故報告」10件(3名) 内訳～ 物損(5件)、自傷(3件)、車輛(2件)

6. 地域社会との関係

1. 広報活動として、「ふくはまの風」を法人施設と協力して発行した。「そるとぼっと通信」の発行が予定より減ってしまった。
2. 販売所に来ていただいた地元のお客様とふれあったり、近隣を散策して地元の方への挨拶を積極的に行なった。
3. 地元の民生委員さんをはじめボランティア及び実習生の方を受け入れ、利用者さんと交流していただくことで理解を深めるよい機会になった。
4. 松ぼっくりで行われた「地域交流会」に参加した。地元の住民の方や大勢のボランティアさんのご協力をいただき、音楽や模擬店を中心とした楽しいイベントに参加できた。

7. 家庭との関係

毎日連絡ノートで利用者さんの状況や情報の受け渡しを継続した。必要に応じて電話や訪問、面談により利用者さんの様子を伺った。個別支援計画の作成時等で面談を実施した。ミニウォーキング(5月)、大掃除(6月、12月)、地域交流会(7月)、流しそうめん(8月)、家族の参観会(3月)を実施し、家族と交流を図り意見交換を行った。

8. 苦情解決体制

苦情の受付はなかったが、駐車場の造成に伴い隣家の方に対し事前の説明をしておかなかったことから、工事終了後に直接お話しをいただく。事情を説明してご理解いただき、「こんな一言聞きました報告書」として受け付けた。日頃より家族や近隣の方の気持ちや言葉に耳を傾ける姿勢を持っていきたい。

9. 会議・職員研修の実施

水曜午後に職員会議とケース会議等を定期的に行った。また、グループ会議は定期的、必要に応じて実施し、グループ間での情報を共有化するよう努めた。

年度末に自己評価を行い、利用者さんの支援や活動、委員会、その他必要な検討を重ねた。また毎朝のミーティングで、利用者さんの様子について情報交換を行った。

内部研修として、職員会議の中で重要文献の読み合わせ、管理者等会議や合同リーダー会議他の内容の報告周知、職員の意識向上に向けたアンケート実施した。

法人職員合同研修会を5回開催。「自立支援協議会」「地域療育支援センター事業」「地域生活支援事業」「ケアホーム」「感染症対策」「安全運転管理」「東日本大震災」「法人理念」「自己評価」等の内容で研修し意見交換、「施設の役割～ビジョン」について2回グループディスカッションを行う。

東日本大震災発生を受け、法人内他施設の防災担当者と合同会議を毎月2回実施し、大規模災害時に対応及び緊急時の安否確認について検討会議を継続している。

日付	内 容	担当者
4/20	ケース検討	研修担当
6/1	<第1回合同研修会> ・自立支援協議会 説明報告 ・ケアホーム、地域支援事業 ・地域療育等支援センター事業報告 ・安全運転管理について	各担当職員 栗田丈臣 若林敦子 加藤将記
6/15	防災対策について	防火管理者
6/29	<第2回合同研修会> ・東日本大震災ボランティア報告	磐田市社協(小楠) 磐田市育成会(浅岡)
7/13	ケース検討	研修担当
8/3	<第3回合同研修会> ・東日本大震災視察報告 ・グループディスカッション 「施設の役割、ビジョン」	飯田重幸 研修担当
10/19	「思い・気付き・提案書」について	研修担当
11/2	<第4回合同研修会> ・感染症対策～手洗い実技	赤塚照美
1/11	「支援の心得」について	サービス管理責任者
1/25	「事故発生時、突発的飛出、所在不明者検索フローチャート」について	サービス管理責任者
2/22	自己評価についてまとめ	サービス管理責任者
3/14	「初めて働くあなたへ」読み合せ	サービス管理責任者
3/30	<第5回合同研修会> ・自己評価報告 ・大規模災害時の対応について ・グループディスカッション 「施設の役割、展望」 ・理事長講話	研修担当 鈴木良和 研修担当 高橋和己

10. 地域生活支援

地域生活支援事業やライフサポート事業を利用して、施設利用者さんの時間外の支援及び地域の方の日中活動や児童の放課後支援を法人内施設と連携して受け入れを継続した。

11. 相談業務・福田地区チーム検討会参加

市町指定相談事業所・地域療育支援センターなどの関係機関と連携をとりながら、利用者さんご家族や地域の方から38件の相談を受け付けた。内容は、家庭での支援について、進路相談、就職活動等について等の相談があった。

また、福田地区在住のケースについては、各関係機関によるチーム検討会に参加し、引き続き地域生活支援のケース検討を重ねた。

12. 中遠地区自立支援協議会

磐田市及び袋井市に中遠地域自立支援協議会が設置され、その中の知的・身体部会に参加した。行政、学校、医療、社会福祉協議会、相談事業所、サービス提供事業所、主体者団体等が出席し、地域の抱える課題について検討及び情報交換を重ねた。地域生活支援専門部会内にある6つの課題別検討会には、福浜会の各事業所から担当者が出席しており、合同研修会等で状況の報告等がされている。

平成23年度松ぼっくり活動報告

1. 在籍者の状況

平成23年度の定員40名及び定員緩和措置を含めた月別の在籍状況は次の通り

区分	月	23年												合計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	24年			
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
入所		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
退所		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
月末 在籍	男	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	
	女	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	
	計	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	

日中一時支援事業デイサービス対象者

区分	月	23年												合計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	24年			
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
入所		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
退所		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
月末 在籍	男	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	
	女	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
	計	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	

2. その他の利用状況

項目	月	23年												合計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	24年			
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
養実 護習 等生	人員	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	利用日数	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	4
実研 習修 ・生	人員	0	0	0	2	1	0	0	0	0	1	0	3	7
	利用日数	0	0	0	16	8	0	0	0	0	12	0	3	39
見 学 者	件数	0	2	0	2	1	0	0	2	0	0	2	0	16
	人員	0	4	0	2	1	0	0	3	0	0	2	0	33
ポテ ライ ンア	延人数	27	23	37	26	24	19	16	22	22	19	12	9	256
	特記				地域交流会									変更済

3. 活動の状況

活動全般について

今年度も、4つのグループを中心として、時には活動の中で、グループを越えて協力しながら取り組んできた。それぞれのグループのなかで、一人一人が興味を持ったり、関心があることを取り入れて活動に生かしてきたつもりである。しかし、十分本人の意志決定を尊重した活動ができてきたかといえれば不十分であった。しかしながら、個を尊重しつつも、集団のために折り合いをつけることも必要な場面が多く、ひとつの社会体験と考えれば得るものもあった年であった。

仕事については、不況の影響によって仕事量が減少したり、(有)フスマ商会での仕事内容が変更したりと小さな変化も感じられた。しかし、グループによっては請負の仕事が減少し、仕事が無い日もあった。そのようなときには、出来るだけ近隣の社会資源を利用した活動を心掛けた。

自主製品作りについては、一部のグループで工夫して取り組んだが、とても不十分で効果的に販売に繋げることはできなかった。購入してもらうためには、商品として価値のあるものを作成する必要を感じた。今後の大きな課題のひとつである。

また、パン・菓子等の製造・販売については、一時的に販売量が減少することもあったが、比較的、一年間順調に進めることができた。

午前には作業活動を行い、午後は散歩やレクリエーションを行う点は、今年度も同様であった。しかし、地域に積極的に出て活動するという面では、不十分であった。利用者さんにとってイキイキと活動できるものを、次年度も探していきたいと思う。また、来所してくださるボランティアさんは、地域の方を中心に定期的に参加していただき、和やかな雰囲気での交流できたように感じている。

そのほか、今年度もグループ活動や個別の活動を実施した。来年度はさらに、新事業体系に移行する年であり、その活動内容を検討しつつ取り組んでいきたいと思う。特に、利用者さん自身が乗り越えていこうとする力をどう引き出し、一緒に活動していくかという点は大切であると考えている。

4. グループ活動報告

W i s h

利用者さんの思いを大切に、作業、午後の活動等を計画する中で、本人が落ち着いて過ごせる空間を提供してきた。来年度もゆとりを持ちながら、楽しみのある活動を展開していきたい。

① 作業活動

個々の作業場所を提供し、過ごしやすい環境を整えたことで、本人の仕事が分かり、取り組めてきている。本人と向き合いながら、作業時間や作業量等を調整し、無理なく過ごすことを心がけた。継続して取り組んでいけるように配慮していきたい。

暑さの厳しくなる夏場では、ハウス作業（苺のポット）が困難となる為、前年度に続き、自主製品作り（メモ帳・連絡ノート）を取り入れた。利用さんが主体的に関われる作業方法を考え、魅力のある製品作りに結びつけていきたい。

しいたけ作業については、毎年継続していることで、1日外に出て仕事をすることに慣れてきている。自然にも恵まれた環境の中で、一人一人がリラックスして作業に取り組めてきている。又、しいたけ販売も堅調に推移し、多くの方々から注文を頂いた。今後も継続していきたい。

(主な作業種)

- いちごのポット作り（鈴木農園）
- アルミ缶・スチール缶リサイクル/回収・缶つぶし・運搬（三光・株金山商店）
- 自主製品作り（メモ帳・連絡ノート・手芸品）
- しいたけ作業/週1回 4～6月、11～3月（森町 そのみ園）
- ふすま組立て作業/週1～5回（(有)静岡フスマ商会）
- お茶の委託販売（恵松学園）

② 午後の活動

本人達の希望を取り入れながら、主に公園や図書館等で過ごした。雨天時等の過ごし方については、内容が偏りがちであったのが反省点として挙げられる。来年度は、地域の中で身体を動かす機会を積極的に取り入れ、室内活動等も見直しながら一人一人が楽しみを持てる時間となるように工夫していきたい。

③ その他の活動

本人達が主に計画を立て、準備から参加できるような形で季節ごとの活動を楽しむことができた。来年度以降にも活かしていきたい。

(主な行事・活動)

- グループ外出 (6月 浜名湖ガーデンパーク 浜松市)
- (7月 桜ヶ池公園 御前崎市)
- 個別外出 (8月 浜名湖パルパル・プール)
- (9月 富士川楽座)
- (3月 浜松動物園&浜松フルーツパーク)
- 宿泊体験 (10月 竜洋オートキャンプ場)
- 料理作り (9月 おしるこ作り)
- (3月 ホットケーキ作り)
- クリスマス会 (12月 松ぼっくり)
- 新年会 (1月 小国神社)
- 活動参観 3月
- 年度納めの会 3月

ビジョン

① 作業活動

主な作業種は下記のとおりである。

- ・千栄加工 (クリップ、カード入れ、ワイヤー入れなど事務用品の組立て)
- ・堀住加工 (袋入れ、ホチキス止め作業)
- ・コーケン工業 (リングはめの仕事)
- ・静岡フスマ商会 (ふすまの組立て、梱包用のダンボール作り、リサイクル用の仕分け)
- ・さくらの苑、於保老健センター (ベッドメイキングの仕事)
- ・缶回収
- ・刺しゅう
- ・公園清掃 (ふるさと公園)
- ・パン作り、販売 (工房ぱお)
- ・雑巾縫い
- ・丸山コーポレーション (部品の脱脂、マスキング材貼付及び納品)

② 午後の活動

午前に引き続き内職など仕事をする人もあれば、公園で身体を動かしたり、図書館でゆっくりと音楽を聴いたり、新聞を読んだりする方もいた。全体としてリフレッシュする時間にあてた。

③ その他の活動

- 個別外出 …個々の希望に沿って年1回実施した。
- ・映画鑑賞 (名探偵コナン～ららぽーと磐田)
- ・プロ野球観戦 (ナイター：浜松球場～中日×横浜)
- ・浜名湖パルパル
- ・温泉を満喫 (つま恋温泉と外食)
- ・日本平動物見学

- グループ外出…いくつかのグループに分かれて年間を通して何回か実施した。
 - ・ 藤枝～蓮華寺池公園
 - ・ 浜名湖ガーデンパーク
 - ・ アクティ森～体験工房
 - ・ 浜名湖体験学習施設「ウォット」
 - ・ 初詣～五社神社、小国神社
 - ・ 11番組交流スタンプラリー参加
- 宿泊体験 …9/9～10、9/16～17、9/30～10/1の3回に分かれて実施した。

利用者さんたちが楽しみにしている年間行事のひとつになっている。一日を終えて、磐田の湯で入浴を済ませてから、参加している皆さんの希望にそって外食をした。夜は、仲間同士でおしゃべりをしながらお酒を飲んだり、テレビを見たり、花火をして楽しんだ。また、職員とじっくり話をしている姿もあり、日頃ゆったりと過ごすことが出来ない人にとってはリフレッシュできる機会となった。
- 日中活動 …季節ごとの楽しみとしてその時期に合わせた行事などを実施した。
 - ・ クリスマスの昼食会
 - ・ 節分豆まき
 - ・ バレンタインチョコレートづくり

樹G

1人1人が、様々な思いを持ち、また自分を受けとめて欲しいと思う気持ちがあるので、受け止め伝え合えるということを目指して1年間過ごしてきた。

自分の気持ちを素直に伝える事の気持ち良さと、利用者さんがお互いに意見を出し合い、耳を傾け、協力することを大切に思い活動してきた。利用者さん同士の思いやりや、協力の気持ちも表れ始めている。中心となっている作業の部分では、定着し落ちついて取り組むことができている。しかし、作業量が少ないときもある為、年間を通して計画的に自主製品作りを進め、新しい仕事の開拓をする必要がある。

① 作業活動

気持ちよく作業に取り組めるよう、環境を整えながら、作業への意識、意欲が継続的に持てるように関わることを大切にしてきた。

- ・ 株コーケン工業（リングはめ作業）
- ・ 千栄加工（クリップ・カード入れ・ワイヤー入れ）
- ・ 堀住加工（袋入れ）
- ・ 公園清掃（ふるさと公園）
- ・ 工房ぱお（パン・クッキー作り・販売）
- ・ (有)静岡ふすま商会（ふすまの組み立て・リサイクル）
- ・ 自主製品（布製品・折染めノート・ぽち袋・リース作り・メッセージカード）

② 午後の活動

福田近くのお店での買出しや、散歩や外出に出かけたりした。又、室内で音楽を楽しんだり、パソコンでインターネットや絵を描いたりして過ごした。利用者さんそれぞれが自分の過ごし方を考え、楽しみを見つけて活動できたように思う。

③ その他の活動

○ 個別外出

楽しみな計画でもあり、待つ間、当日も充実していたように思えた。

(主な外出先)

- ・ 掛川花鳥園散策と買い物（ららぽーと磐田）
- ・ ショッピングセンター
- ・ 浜松市動物園～買い物と食事（ランチ）
- ・ ドリームプラザ（遊園地・遊覧船など）

○ グループ外出

利用者さんが意見を出し合い、本人主体の計画になるように進めてきた。その為か、個々がそれぞれの楽しみ方をしていた。来年度も継続して行っていきたい。

- 1月 五社神社 （初詣で食事会）
- 3月 年度納めの会（ボランティアさんとの食事会）

○ 宿泊体験

利用者さんとご家族の方の意見を参考にして、10月に松ぼっくりで宿泊を行った。利用者さんが主体となって意見を出し合い内容を決めていった。それぞれのペースを大切に、無理なく過ごすことができるように心掛けた。宿泊当日は、昨年と比べて眠る時間が多く取れた利用者さんが増えた。食事や買出しなどの場面ごとに、個々がそれぞれの楽しみ方をしていた。

ばお

① 作業活動

(1) パン作り

- ・ 各利用者さんが「買出し」「計量」「粉ふるい」「袋入れ」「販売」等に取り組んでいる。
- ・ 現在、16種類の中から売れ行きを考慮し、販売を行なった。冷凍生地を利用したパンは今年度は職員体制の都合により販売できなかった。
- ・ 定期販売 火 … 第1 東海文化専門学校 第2・4 磐田市役所 第3 福田支所
水 … 第1週以外→喫茶ペンギン（iプラザ内）
木 … はまぼう・そるとぼっと販売
金 … 東海福祉専門学校
- ・ 各種バザー、地域交流会にも出品した。

(2) 菓子作り

一人ひとりが、作業の手順を覚え、自分の得意分野を主に担当しながら作業できていた。また、新たな作業工程にチャレンジした利用者さんも数名見られる。シーラーによる「袋しめ」は、職員と声を掛け合いながらであるが、袋入れは、ほとんどの利用者さんが一人で行なうことができている。また、袋の準備（シール貼り・スタンプ押し）も以前よりスピーディーに仕上げられるようになっている。

- ・ 「クッキー」「パウンドケーキ」「マドレーヌ」「シフォンケーキ」「ブラウニー」「くるみとレーズンのカップケーキ」「チョコチップマフィン」
- ・ 「黒ごまプリン」「レアチーズケーキ」「ゼリー」（夏季限定）
- ・ 各種バザー、地域交流会での販売のほか、ホワイトデーギフトとして注文販売も行なった。また、「バレンタインギフト」を今年度初めて販売してみた。
- ・ 新商品として「ガトーショコラ」「スイートポテト」の販売を始めた。

(3) 内 職（ブリヂストン）

自分たちで協力しながら作業を進めることができ、昨年より「準備や片付けをする」という意識も強くなって積極的に取り組むことができるようになった。

② その他の活動内容

○ 個別外出

グループの方同士でなく、他のグループの利用者さんや職員とでかける人もあり、普段とはまた違った楽しい外出となったように思われる。

7月	磐田市新造形創造館、フュージング体験	利用者1名
9月	名古屋港水族館&電車体験	利用者1名
10月	ぼんぼこツアー参加	利用者2名
	遊園地パルパル	利用者2名
11月	浜松科学館	利用者1名
	「シダックス」カラオケ&外食	利用者1名

9月	宿泊体験	昨年好評だった「竜洋オートキャンプ場」を利用し宿泊体験を実施した。今回は、BBQを計画し、いつもと違う雰囲気の中でみんな楽しむことができていた。コテージ内のお風呂を利用し、各々が一晩をテレビを見たりお喋りを楽しむことができていた。
3月	グループ外出 「アクティ森」 草木染め体験&外食	今年は、体験ができるような外出を計画。みんなで、草木染めを体験した。各々が型や、色、レイアウトを自分で考え、職員の力を借りながらも最後まで作りあげることができた。味のあるバンダナが出来上がり、思い出に残る外出となったと思われる。

5. 行事・バザー報告

月	行事等	担当	参加者		バザー等	担当	参加者	
			はまべ会	ボラ			利用者	はまべ会
4	年度始めの会 個別面談	各G担当	○					
5	個別面談	各G担当	○					
6	大掃除(11)	環境美化委員会	○		磐田北高校文化祭		○	呼びかけ
7	地域交流会(23)		○	○	地域交流会不用品バザー			全員
8								
9					天方小バザー	ばお		
10					ふれあいまつり(23)	高塚	呼びかけ	呼びかけ
11	ウォーキング(親睦会)(5)				フェスティバル豊田(6) 光る子まつり(19) ドルチェ販売(26)	平野 菅野 高塚	○	呼びかけ ○
12	大掃除(2) ヤマハ労連観劇(13)	環境美化委員会	○		磐田ふれあい作品展 (3~11)	奥山	○	
1	新年を祝う会・成人を祝う会	各G		○				
3	年度納めの会・感謝の集い	各G		○				

6. 音楽活動

【ともしびコンサート】

音楽活動を中心に活動しているNPO法人に依頼し、月1回、季節感のある音楽（歌）や楽器、歌のリクエストなどに親しむ機会を設け、室内コンサートを行う。

月に一度の「ともしびコンサート」も恒例となっており、演奏を聴いたり歌を歌ったり、皆で楽しい時間を過ごすことができた。

7. 環境美化委員会

(1) 施設周りの美化・・・施設の周囲に燃えやすい物がないか等の見回りや竹やぶに落ちているゴミの処分を行った。また、ペットの排泄物については、ボランティアさんの力を借りて看板を設置。飼主の方に持ち帰ってもらうように呼びかけをしている。

毎日放課後にトイレ掃除・床のモップがけを行ってきた。また、毎週金曜日、午後の活動に掃除を組み入れ、利用者さんと一緒に取り組んできた。

(2) 大掃除については、年2回に分け、ご家族の力を借りながらそれぞれ2日間で実施した。

第1回目・・・6月10日（金）、6月11日（土）第2回目・・・12月17日（土）

今年度は冬季大掃除を1日のみ実施した。内容を工夫することにより、可能な限り取り組むことができた。

(3) プラスチックやペットボトル等のゴミを出す時には、事前に洗い綺麗にしてから出すように心掛け、前日にゴミをまとめて出した。自治会のゴミ収集カレンダーに基づき、ゴミ当番表を作成。勤務表にも反映させることで、出し忘れ防止の意識が定着してきた。

8. 安全委員会

(1) 利用者の方の安全確保と安全運転管理

利用者さんがケガをすることがないように、チームワークを高めて状況を把握し、見守っていきたいと思う。一方で、交通事故に関しては、今後も職員同士声を掛け合い、交通事故が起きないように安全への意識を高めていきたい。新たに公用車を運転する人については大きな事故はなかったものの物への接触等の事故は発生しているので、十分な配慮が必要である。・「事故報告書」「ヒヤリハット報告書」の集計結果については、別紙参照。

(2) 施設設備（環境）の保全管理

・設備自主検査を9月、3月に実施。

点検表を作成して、建物や設備の不具合について把握し、改善を行った。

(3) 緊急事態への対応

・緊急事態（事故）に対しては、今後も、マニュアルの検討を重ね、分かり易く対応しやすいものにしていく。

9. 生活・保健衛生委員会

(1) 健康診断及び記録について

健康診断は年2回実施。保菌検査は、職員、クッキーやパン作業に関わる利用者さんは毎月実施した。健康診断の結果については、嘱託医に確認・捺印を頂き、各家庭への報告をした。必要に応じて家庭への電話連絡も行った。再検査が必要な方については、それぞれ個々に通院してもらったが、異常はなかった。

昼の薬はグループで管理をした。発作の記録は、不十分だったので年度末にチェックしていきたい。また、投薬記録の変更も十分でなかった。発作の記録が行いにくいいため、改良していきたい。

(2) 体重測定について

毎月月初めに実施した。連絡帳に体重表（カード）をはさみ、家庭に連絡し確認印をいただいた。測定の結果を健康チェックの目安とし、食事量を加減したり通院時に持参する家庭もあった。

(3)機関誌について

保健だよりは、必要に応じて随時《お知らせ》として配り、たよりとしては年2回発行した。ノロウィルスやインフルエンザについてのお知らせを各家庭に配布し、注意を呼びかけた。

(4)衛生面について

医薬品については、必要に応じて購入し管理していたが、定期的なチェックができず、在庫がない時があった。来年度は気をつけていきたい。着替えの保管については衣装ケースで管理した。

(5)病気予防について

食中毒や風邪・インフルエンザの予防のため外から帰った時や、食事の前とうがい・手洗いの声掛け・マスク着用を促した。しかしながら、利用者や職員の家族に感染者がある場合は、通所禁止の措置をとった。今年度は松ぼっくりと潮の香分場で、利用者さん本人感染1人、職員本人感染1人、家族が感染したための通所・出勤停止措置が利用者さん2人、職員4人となった。感染症についての職員研修を行い、施設内での感染予防を促した。

(6)防虫防鼠について

環境美化委員会にて大掃除やバルサン実施。

10. 内部研修

年間計画を基に、研修担当者で企画の立案と実施を行った。主に、水曜日の午後の時間を研修活動に充て、法人全体研修5回（感染症対策・防災含む）、出張報告他、年間8回の研修活動を実施した。様々な予定が入る中、計画通りの実施とはならなかったが、職員一人一人にとって、普段の業務を省みる良い機会となった。

来年度は事例検討等も取り入れ、職員の資質向上に向けて、互いに高め合えるような活動の場となるように努めていきたい。

日時	内容	担当者
6/1	自立支援協議会について、地域療育センター・地域生活支援・ケアホームの事業報告、安全運転について（合同研修会）	各担当者
6/29	東日本大震災 災害ボランティアの報告（合同研修会）	研修担当
8/3	東日本大震災 東北視察の報告 グループディスカッション（合同研修会）	研修担当
8/31	出張報告	川島、菅野、高塚
11/2	感染症対策（合同研修会）	生活保健委員会
12/21	出張報告	川島、渡瀬
3/7	自己評価話し合い	研修担当者
3/31	自己評価各施設発表、大規模災害時の対応について、 グループディスカッション（合同研修会）	防災担当者 研修担当

11. 相談・福田チーム検討会・地域療育支援センター事業

施設等で受ける相談については、リーダー・地域生活支援担当者を中心に、市町指定相談事業所・地域療育支援センターなどの関係機関と連携をとりながら、地域からの相談に応じる。内容は、通所に関する相談・学齢児の長期休暇時や放課後の支援相談・進路相談、在宅者への支援等。

また福田地区在宅者のケース検討会(福田チーム検討会)に参加。地区内の各機関が一致した認識をもつことができ、協力して地域生活支援を行っていく土台作りの場となっている。今年度は5回実施した。

12. 障害者就業・生活支援センター連絡会議

中東遠地区就業促進協議会は、障害者の就業を促進するために、教育関係機関、労働関係機関、福祉関係機関、企業等が連携協力を図ることを目的として開催された。また、同時に障害者就業・生活支援センターが主催する連絡会議も開催され、法人単位で参加した。

13. 中遠地域自立支援協議会

中遠地域自立支援協議会は、磐田市及び袋井市が地域生活支援事業実施要綱(厚生労働省通知)に基づき、障害福祉に関するシステムづくり(相談支援事業等)のため、関係機関の連携強化、社会資源の開発・改善等を推進する目的で設置し、幹事会、代表者会、作業部会(専門部会)をもって構成されている。

中遠地域自立支援協議会への参加については、法人全体で担当職員を決めて、その職員を中心に必要に応じて職員も参加する方法を取っている。作業部会(精神部会、知的・身体部会)に参加するとともに、知的・身体部会では、「乳幼児期」「就労」「地域生活支援」の内、「就労」「地域生活支援」専門部会に参加、そして「地域生活支援専門部会」では、6つの課題別検討会～「グループホーム・ケアホーム」「ショートステイ」「重心の在宅支援」「相談支援事業から見える在宅支援」「送迎サービス」「余暇支援」～にそれぞれ積極的に参加している。次年度は、自閉的傾向のある方や行動障害のある方に関する検討会を新たに設け、当法人が担当となることが決まった。また「重心の在宅支援」課題検討会についても、これまではまぼうが県の重心在宅支援の会議や県ネットワーク会議等に関わってきていることもあり、次年度からはまぼうも共同で担当施設となった。さらに、はまぼうが児童発達支援事業及び放課後等デイサービス事業も実施することから、「乳幼児期」専門部会に参加していくこととなる。

平成23年度 潮の香《生活介護事業・自立訓練事業》活動報告

1 平成23年度の定員（20名）及び施設機能利用事業対象者の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
退所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
男	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14
女	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
計	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19

2 その他の利用状況

項目	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	養実 護習 等生	延べ 人員	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0
	日数	0	0	13	0	0	0	11	0	0	0	0	0	24
日中 一時	延べ 人員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	日数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	6
見学 者	件数	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2
	人員	0	0	0	0	24	0	2	0	0	0	0	0	26
ボラ ン ティ ア	延べ 人数	38	38	49	54	46	44	34	43	35	35	37	25	478

平成23年度 <生活介護事業> 活動報告

3 活動の状況

(1) 仕事について

本年度も、地域に根ざした自主製品の「祭典用のき花作り」、請負の「堀住加工有限会社（ヤマハの自動車部品）の袋詰め・ホッチキス留め」、「有限会社アイバ（ヤマハの船外機部品）の袋詰め・ホッチキス留め」の仕事を行ってきた。

また、地域の事業所で働くことを目指して「カネ長水産加工業（シラス干し）・大橋藤雄さんの農業手伝い・コーケン工業（自動車部品）」に出向してきた。

本年度は新しく、11月から「ダイオ化成株式会社（農業・園芸資材等）」の請負作業を始めている。

生活介護事業からはコーケン工業に1名が、カネ長水産にも1名が出向した。

《のき花製作》

磐田市福田地区祭典用のき花（本年度も豊田地区から注文を受けた）の製作総本数の、約18,780本（約販売18,500本・寄付280本）を利用者さん・職員及びボランティアさんの協力を得て作業を進め、無事に出荷することができた。震災の影響なのかは分からないが、各自治会で少しずつ注文数が減り、昨年と比べ今年は約1350本少なくなった。

また、昨年に効率良くきれいに製作することを考えて、道具や工程を工夫した成果が表れ、予定の時期より早めに仕上げることができた。また、利用者さんの技量が向上してきたことも大きい。

《請負作業》

「ヤマハの自動車部品・船外機部品の袋詰め」を行ってきた。特に不況であった昨年と比べると、今年度は仕事量が大きく増えた。しかし、月や月末によって仕事量に差があり安定しないことがある。そこで、少しでも工賃が高く潮の香に適したものがあればと考えていたが、「ダイオ化成株式会社」から話を頂き、11月から新しく始めることになった。主に家庭で使う、網戸や園芸・農業等の資材を袋に入れる作業で、現在多くの利用者さんが関わっている。

《外部作業》

地域への社会参加と就労支援の一環として、地域の事業所等に積極的に出掛けて仕事をする機会を作ってきた。

今年度も(有)カネ長水産・(有)フスマ商会・大橋さんの農作業に出向した。また、コーケン工業(株)にも1名が出向した。

大橋さんの農作業では、苗床の土入れ等に声を掛けていただき数日間出向できた。(有)カネ長水産のしらす漁は、今年度も不況といえる状態が続き、4月から10月の出向期間中は仕事があつたりなかつたりの日が続き、昨年よりも減少した。

コーケン工業(株)には、体験と実習を経て現在1名が出向し、充実した時間を過ごしている。

また、生活介護事業ではあるが、就労の可能性があれば積極的に勧めていく思いである。

(2) その他の活動

毎日の生活を充実させるために、気軽に取り組み、楽しめる活動を目指してきたが、その日その月によって仕事量が違うため、計画的に進めることは難しかった。しかしその中でも、利用者さんの意見を取り入れて各種行事・外出を企画・実施し、たくさんの笑顔を見ることができた。

① スポーツ・散歩・レクリエーション等

朝のラジオ体操・ストレッチ体操・散歩は毎朝励行してきた。ペットボトルに水を入れて利用したダンベル体操は、インフルエンザのことも考え12月からタオルを使うストレッチ体操に切り替えた。

今後も、やりやすく利用者さん一人ひとりに適した運動はどんなものがあるか、検討し具体策を考えていきたい。

② 料理作り

可能な限り自分の力で料理し、その楽しさを味わうことを目標に、福田食推協の皆さんのご協力を得ながら調理実習を行った。昨年までは年2回行われてきたが、残念ながら今年から1回の実施となった。

調理も慣れたもので、手際よく準備をしたり自ら進んで野菜を切ったりと、かなり意欲的に取り組む利用者さんが増えた。部分的にはできるが、一人の力だけでは難しい利用者さんには傍について一緒に行ってきた。苦手だと思っていた食材を、おいしそうに食べる姿を見た感動は大きかった。

③ 音楽・美術の鑑賞

美しいもの、創造的なものに触れるための美術鑑賞・音楽鑑賞会を積極的に行ってきた。美術関係では、豊田図書館や磐田市図書館で行われた磐田市在住の作家の作品を鑑賞し、身近な風景画や人物画に親しむことができた。

音楽関係では、地域交流会で楽器演奏や歌を聴いたり、ヤマハ労連主催のチャリティー公演でミュージカルを観劇し大いに笑ったりした。

日常的な音楽活動は、利用者さんが季節ごとに選曲した歌を朝の会で毎日歌ってきた。

④ 本人会活動

余暇利用の仕方、清掃当番の決定及び初詣・食事会、クリスマス会などの行事・諸活動などできる限り利用者さん同士で話し合い、その要望・意見を取り入れてきた。

⑤ 野外活動（年間5・6回実施）

初詣・食事会その目的地を考え、計画を立てる。など、かなりの部分で利用者さん自身の力を発揮することができた。また、野外活動には、どの利用者さんも関心を示し、意欲的に取り組んでいた。

今年は、浜北で行われたポップサーカス浜松公演を鑑賞し、スリルとユーモア溢れる演技に大いに興奮した。また、ミニ旅行は、大井川鉄道のSLに乗って千頭駅まで行った。「電車から見える自然豊かな風景」と「川辺で食べるおいしい駅弁」を堪能できた。

今年度で5回目のウォーキングは、磐田の見付宿通りを散策し、近距離と遠距離二つのコースに分かれて、かぶと塚公園までを往復した。途中、たくさんのお寺を巡ることで、知らなかった見付宿の魅力を再発見することができた。

(3) 食事について

- ・ ゆっくり噛みしめて食べたり、食事を楽しんだりしているので、食事時間のことについてはあまり細かく伝えないで様子を見てきた。
- ・ 食事前のテーブル拭きが、自分から進んでできるようになってきた。
- ・ 利用者さん1名は偏食が強いので、「何でも食べる、特に野菜を食べる」よう、何回も話し合ってきたが、多少の改善は見られたものの不十分である。今後も「野菜を食べる」ことだけに絞り、ねばり強く話し合い改善させていきたい。
- ・ 食事後、食堂の床の雑巾がけを利用者さんの当番制で行ってきた。進んで取り組む利用者さんが多かった。

(4) 健康管理及び安全

利用者さん一人ひとりの健康を維持し、体力の向上を図るために、次のような支援をしてきた。

- ・ 日常生活の衛生面においては、手洗い、うがい、歯磨き等の励行を強力に進めてきた。今年度も、インフルエンザには気を使ってきた。その成果があり、インフルエンザにかかる利用者さんはいなかった。
- ・ スポーツ、散歩など自ら進んで楽しむよう支援してきたが、自ら進んでできるのは一部の利用者さんだけであった。誰もが自ら行うよう支援のあり方を工夫したい。
- ・ 朝のラジオ体操・ストレッチ運動・散歩は毎日欠かさず実行できた。
- ・ 心の悩みを訴える利用者さんには定期的に本人の話を聞いたり、顔や体の表情の変化が見られる利用者さんには職員から積極的に話し掛けたりして、その対応を図った。心の病の改善は、すぐには改善されていかないので、主治医との綿密な連携や職員による傾聴など、必要に応じて対応を考えていかなければいけない。
- ・ 通所のための自転車利用に対しては、帰りの会等で毎日のように交通安全注意を呼びかけてきた。その成果もあってか、今年度は自転車による事故は皆無であった。
- ・ 地震及び火災を想定した避難訓練を毎月1回実施し、安全で迅速な避難ができるようさまざまな場面での「予告なしの訓練」を行ってきた。また、非常時に使うため新規に購入した発電機を、訓練日に併せ定期運転を行った。

11月17日は、磐田市消防署の協力を得て総合防災訓練を実施した。通報訓練と、今回は水消火器を使って参加者全員が消火訓練を行った。

(5) 委員会活動

利用者さんの生活・健康管理並びに安全・環境整備等について、松ぼっくりと協力して委員会を設け協議した。

(ア) 生活・保健衛生委員会

- ・ 健康診断の実施（内科健診：5月11日、11月25日）
レントゲン、採血、保菌検査（年2回）、身体測定・検尿（潮の香で実施）、嘱託医による問診
- ・ 個人の衛生面への配慮
入浴、洗顔、洗髪、整容、うがい、手洗い、歯磨きなどの励行の奨励と、家庭との連携を図った。手洗い・うがいは外出後、毎回必ず行い点検も実施してきた。歯磨きは食後に行い、出来たらシールを貼るよう決め、意識を高めた。
- ・ 「家庭へのお知らせ」の中に、季節や時期に合わせた健康管理などの記事を載せたり、風邪予防などを早めに呼びかけたり、うがい、手洗いを励行したりしてきた。早めのマスクの着用も勧めた結果、今年度インフルエンザはゼロ、の成果が得られた。
- ・ 非常災害時や緊急時の対応ということで、利用者さんの投薬内容、発作の状況が分かるようにした。また、生活習慣病検診や、婦人病検診の対象者には家庭との連絡を取り、積極的に検診を勧めてきた。

(イ) 環境美化委員会

家族の方の協力を得て、6月11日、12月27日に奉仕活動日を計画し、作業室・食堂などの清掃・整理等を行い、環境美化に努めた。

(ウ) 安全委員会

- ・ 事故防止に対する意識向上を図るため、実際に起こった「事故」を例に挙げて、会議や朝のミーティングなどで事故防止に対する話し合いを行ってきた。
- ・ 火災及び地震避難訓練を毎月1回実施してきた。さまざまな場面を想定し行なったが、職員の指示に従い、落ち着いて行動できるようになってきた。
- ・ 法人各施設から防災担当者を組織し、毎月2回の会議の場で、「大規模災害時の対応マニュアル」の整備を進めてきた。それと同時に、非常持ち出し品や、無線・発電機等の備品の選定も行っている。

平成23年度 <自立訓練（生活訓練）事業> 活動報告

3 活動の状況

(2) 仕事について

本年度も、地域に根ざした自主製品の「祭典用のき花作り」、請負の「堀住加工有限会社（ヤマハの自動車部品）の袋詰め・ホッチキス留め」、「有限会社アイバ（ヤマハの船外機部品）の袋詰め・ホッチキス留め」の仕事を行ってきた。

また、地域の事業所で働くことを目指して「カネ長水産加工業（シラス干し）・大橋藤雄さんの農業手伝い・フスマ商会（襖製作の一工程である骨組みの組立作業等）・コーケン工業（自動車部品）」に出向してきた。

本年度は新しく、11月から「ダイオ化成株式会社（生活・園芸資材等）」の請負作業を始めることができた。

自立訓練事業からはコーケン工業に3名が、フスマ商会には1名が出向している。

《のき花製作》

磐田市福田地区祭典用のき花（本年度も豊田地区から注文を受けた）の製作総本数の、約18,780本（約販売18,500本・寄付280本）を利用者さん・職員及びボランティアさんの協力を得て作業を進め、無事に出荷することができた。今年は震災の影響なのか、各自治会で少しずつ注文数が減り、昨年と比べ約1350本少なくなった。

また、効率良くきれいに製作することを考えて、道具や工程を工夫した成果が表れ、予定の時期より早めに仕上げることができた。また、利用者さんの技量が向上してきたことも大きかった。

《請負作業》

「ヤマハの自動車部品・船外機部品の袋詰め」を行ってきた。特に不況であった昨年と比べると、今年度は仕事量が大きく増えた。しかし、月や月末によって仕事量に差があり安定しないことがある。そこで、少しでも工賃が高く潮の香に適したものがあればと考えていたが、「ダイオ化成株式会社」から話を頂き、11月から新しく始めることになった。主に家庭で使う、網戸や園芸等の資材を袋に入れる作業で、自立訓練事業からは利用者さん1名が関わっている。

《外部作業》

地域への社会参加と就労支援の一環として、地域の事業所等に積極的に出掛けて仕事をする機会を作ってきた。

今年度も(有)カネ長水産・(有)フスマ商会・大橋さんの農作業に出向した。また、コーケン工業㈱にも3名が出向した。

大橋さんの農作業では、苗床の土入れ等に声を掛けていただき数日間出向できた。(有)カネ長水産のしらす漁は、今年度も不況といえる状態が続き、4月から10月の出向期間中は仕事があつたりなかつたりの日が続き、昨年よりも減少した。

コーケン工業㈱には現在3名が出向し、会社のルールをしっかり守りながら、自分の持った力を十分作業に発揮し、充実した毎日を過ごしている。

(2) その他の活動

毎日の生活を充実させるために、気軽に取り組み、楽しめる活動を目指してきたが、その日その月によって仕事量が違うため、計画的に進めることは難しかった。しかしその中でも、利用者さんの意見を取り入れて各種行事・外出を企画・実施し、たくさんの笑顔を見ることができた。

① スポーツ・散歩・レクリエーション等

コーケン出向意外の方は、朝のラジオ体操・ストレッチ体操・散歩は毎朝励行してきた。ペットボトルに水を入れて利用したダンベル体操は、インフルエンザのことも考え12月からタオルを使うストレッチ体操に切り替えた。

今後も、やりやすく利用者さん一人ひとりに適した運動はどんなものがあるか、検討し具体策を考えていきたい。

② 料理作り

コーケン出向意外の方は、可能な限り自分の力で料理し、その楽しさを味わうことを目標に、福田食推協の皆さんのご協力を得ながら調理実習を行った。昨年までは年2回行われてきたが、残念ながら今年から1回の実施となった。

調理も慣れたもので、手際よく準備をしたり自ら進んで野菜を切ったりと、かなり意欲的に取り組んでいた。

③ 音楽・美術の鑑賞

美しいもの、創造的なものに触れるための美術鑑賞・音楽鑑賞会を積極的に行ってきた。美術関係では、豊田図書館や磐田市図書館で行われた磐田市在住の作家の作品を鑑賞し、身近な風景画や人物画に親しむことができた。

音楽関係では、地域交流会で楽器演奏や歌を聴いたり、ヤマハ労連主催のチャリティー公演でミュージカルを観劇し大いに笑ったりした。

日常的な音楽活動は、利用者さんが季節ごとに選曲した歌を朝の会で毎日歌ってきた。

④ 本人会活動

余暇利用の仕方、清掃当番の決定及び初詣・食事会、クリスマス会などの行事・諸活動などできる限り利用者さん同士で話し合い、その要望・意見を取り入れてきた。

⑤ 野外活動（年間5・6回実施）

初詣・食事会のその目的地を考え、計画を立てる。など、かなりの部分で利用者さん自身の力を発揮することができた。また、野外活動には、どの利用者さんも関心を示し、意欲的に取り組んでいた。

今年は、浜北で行われたポップサーカス浜松公演を鑑賞し、スリルとユーモア溢れる演技に興奮した。（外部作業の方はサーカスか仕事かの選択制とした）また、ミニ旅行は、大井川鉄道のSLに乗って千頭駅まで行った。「電車から見える自然豊かな風景」と「川辺で食べるおいしい駅弁」を堪能できた。

今年で5回目のウォーキングは、磐田の見付宿通りを散策し、近距離と遠距離二つのコースに分かれてかぶと塚公園までを往復した。途中、たくさんのお寺を巡ることで、知らなかった見付宿の魅力を再発見することができた。

（3）食事について

- ・ ゆっくり噛みしめて食べたり、食事を楽しんだりしているので、食事時間のことについてはあまり細かく伝えないで様子を見てきた。
- ・ 食事後、食堂の床の雑巾がけを利用者さんの当番制で行ってきた。進んで取り組む利用者さんが多かった。

（4）健康管理及び安全

利用者さん一人ひとりの健康を維持し、体力の向上を図るために、次のような支援をしてきた。

- ・ 日常生活の衛生面においては、手洗い、うがい、歯磨き等の励行を強力に進めてきた。今年度も、インフルエンザには気を使ってきた。その成果があり、今年度もインフルエンザにかかる利用者さんはいなかった。
- ・ 朝のラジオ体操・ストレッチ運動・散歩は毎日欠かさず実行できた。（外部作業の方を除く）
- ・ 心の悩みを訴える利用者さんには定期的に本人の話の聞いたり、顔や体の表情の変化が見られる利用者さんには職員から積極的に話し掛けたりして、その対応を図った。心の病の改善は、すぐには改善されていかないので、主治医との綿密な連携や職員による傾聴など、必要に応じて対応を考えていかなければいけない。
- ・ 通所のための自転車利用に対しては、帰りの会等で毎日のように交通安全注意を呼びかけてきた。その成果もあってか、今年度は自転車による事故は皆無であった。
- ・ 地震及び火災を想定した避難訓練を毎月1回実施し、安全で迅速な避難ができるようさまざまな場面での「予告なしの訓練」を行ってきた。また、非常時に使うため新規に購入した発電機を、訓練日に併せ定期運転を行った。

11月17日は、磐田市消防署の協力を得て総合防災訓練を実施した。通報訓練と、今回は水消火器を使って参加者全員が消火訓練を行った。

（５）委員会活動

利用者さんの生活・健康管理並びに安全・環境整備等について、松ぼっくりと協力して委員会を設け協議した。

（ア）生活・保健衛生委員会

- ・ 健康診断の実施（内科健診：5月11日、11月25日）
レントゲン、採血、保菌検査（年2回）、身体測定・検尿（潮の香で実施）、嘱託医による問診
- ・ 個人の衛生面への配慮
入浴、洗顔、洗髪、整容、うがい、手洗い、歯磨きなどの励行の奨励と、家庭との連携を図った。手洗い・うがいは外出後、毎回必ず行い点検も実施してきた。歯磨きは食後に行い、出来たらシールを貼るよう決め、意識を高めた。
- ・ 「家庭へのお知らせ」の中に、季節や時期に合わせた健康管理などの記事を書いたり、風邪予防などを早めに呼びかけたり、うがい、手洗いを励行したりしてきた。早めのマスクの着用も勧めた結果、今年度インフルエンザはゼロ、の成果が得られた。
- ・ 非常災害時や緊急時の対応ということで、利用者さんの投薬内容、発作の状況が分かるようにした。また、生活習慣病検診や、婦人病検診の対象者には家庭との連絡を取り、積極的に検診を勧めた。

（イ）環境美化委員会

家族の方の協力を得て、6月11日、12月27日に奉仕活動日を計画し、作業室・食堂などの清掃・整理等を行い、環境美化に努めた。

（ウ）安全委員会

- ・ 事故防止に対する意識向上を図るため、実際に起こった「事故」を例に挙げて、会議や朝のミーティングなどで事故防止に対する話し合いを行ってきた。
- ・ 火災及び地震避難訓練を毎月1回実施してきた。さまざまな場面を想定し行なったが、職員の指示に従い、落ち着いて行動できるようになってきた。
- ・ 法人各施設から防災担当者を組織し、毎月2回の会議の場で、「大規模災害時の対応マニュアル」の整備を進めてきた。それと同時に、非常持ち出し品や、無線・発電機等の備品の選定も行っている。

平成23年度 地域生活支援事業活動報告書

静岡県及び各市町が定めた「地域生活支援事業」及び「障害児者ライフサポート事業」実施要綱等に基づき、3市1町の委託を受けて地域生活支援事業・ライフサポート事業・福祉有償運送を実施。利用者さん等からの依頼を受け、必要に応じた地域生活支援サービスを提供することにより、障がいのある人やその家族が地域で安心して生活できるための支援を行った。

今年度実施したサービス内容等は次のとおり。

1. 提供サービス内容

地域生活支援事業（提供市町村：磐田市、袋井市、掛川市及び森町）

日中一時支援事業

移動支援事業（袋井市：外出介護事業）

ライフサポート事業（提供市町村：磐田市、袋井市及び掛川市）

ヘルパー派遣（自宅等での支援、外出支援、送迎サービス）、デイサービス

福祉有償運送（提供市町村：磐田市、袋井市及び掛川市）

2. サービス提供時間

原則として6：00～22：00で対応し、支援を行った。

3. 利用状況

施設利用者さんや特別支援学校の生徒さんからの依頼が中心だったが、特別支援学校の生徒からの依頼が増えてきている。日中一時支援の依頼は、増加傾向にあるが、移動支援（外出介護）に関しては、ほとんど利用がないのが現状だった。

特別支援学校の長期休暇時には、依頼が増加する。高等部の生徒さんは、卒業後のことを考えての施設体験という意味での利用が多かった。重症心身障がい児・者の依頼については、受け入れ場所、支援者不足のため、依頼を断るケースも出たが、支援員、看護師等の態勢が取れば、土、日曜日や祝祭日などの施設の閉所日に受け入れることもあった。

サービス提供時間に関しては、早朝や夜間の支援依頼はほとんどなく、依頼の中心は、8：00～19：00の時間内に集中していた。介護保険の対象者だが、障害者手帳も合わせ持っている方の定期的な通院等の依頼も増えてきた。

また、森町に関しては、以前利用されていた方が、自宅にて過ごすということで依頼がなくなり、森町の依頼は減った。支援の依頼の相談等はあったが、福祉有償運送やライフサポート事業の契約を森町と行うことができなかつたため、送迎サービスが出来ず、支援を行うまでに至らなかった。

4. その他

土、日曜日や祝祭日などの施設の閉所日の支援に関しては、ヘルパーさんに依頼をしていることが多いため、その時に、大災害等があった場合の対応について、法人としての検討を進めている。

別 表

H23 地域生活支援事業 月別実績件数

磐田市

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	H23 合計	H22
ライフ サポート	43	48	60	57	35	46	83	54	51	45	61	38	621	554
日中 一時	153	144	161	172	273	204	212	186	149	139	149	165	2107	1848
移動 支援	1	2	2	0	0	0	3	2	1	2	1	1	15	35
合計	197	194	223	229	308	250	298	242	201	186	211	204	2743	2437

袋井市

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	H23 合計	H22
ライフ サポート	16	7	23	12	5	22	34	25	15	18	21	15	213	298
日中 一時	86	65	83	84	103	96	92	80	64	61	71	69	954	750
外出 介護	0	1	0	0	0	1	0	1	0	1	0	1	5	15
合計	102	73	106	96	108	119	126	106	79	80	92	85	1172	1063

森町

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	H23 合計	H22
ライフ サポート	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日中 一時	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	70
外出	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	70

掛川市

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	H23 合計	H22
日中 一時	4	0	3	3	4	4	2	2	2	4	4	5	37	52
合計	4	0	3	3	4	4	2	2	2	4	4	5	37	52

平成23年度 共同生活介護事業「汐風」活動報告

1. 入居者さん及び各ケアホームの状況

ケアホームは4ヶ所すべてのケアホームも大きな事故等はなく、生活を送ることが出来た。

【汐風】

8月より、浜松市のケアホームから転居してきた方が、新しく仲間に加わり生活を始め、週末はケアホームにて一人で生活をして過ごす。今までとは、違った環境ということもあり、なかなか他の入居者さんと関わりことはなく生活をしてきた。また、仕事面への不満などもあり、浜松の就労センター「だんだん」や地域療育センター「結」などにも間に入ってもらい話をした。

3月に入居者さんの一人が眼の手術を行い、無事に終わり1週間自宅療養をした。入居者さん同士の思いがあり、相手に上手く伝えることが出来ずに個々の思いを抱えたまま、生活をしたため、お互いに嫌な思いをしてしまった。

【あしたば】

全身性障がいのある入居者さんからの通院や買い物などの依頼が増え、地域生活支援事業を利用していただき、対応をした。また、家族の方も高齢者用マンションに引越しをされたこともあり、自宅に帰ることはなくなりケアホームにて生活をしている。

夏には野菜を育て収穫を楽しみ、みんなでの外出など楽しみを見つけながら生活を送った。ゴミ捨て、配膳手伝いなど、個々に役割を持って生活をしている。

【日和】

ケアホーム内の人間関係により、トラブルがあったが、世話人・バックアップ職員が間に入ることで徐々に改善に向かっていった。将来的に自立を希望している入居者さんもいて、食事の支度などにも興味を持って手伝うことも増えてきた。

【みぎわ】

2年目に入り、入居者さん、世話人にも余裕が出てきて、生活にも慣れてきて人間関係も落ち着いてきた。入居者さんの中にも、仲間意識も少しずつできてきている。ケアホーム内で家事の手伝い等の役割なども出来てきて生活を送った。また、地域の自治会の夏祭りにも誘っていただき、参加する事ができた。

9月の台風により、外壁、屋根など破損してしまったため、修繕依頼を行ったが、震災等により、材料がなく修善時期が遅れてしまった。

2. 世話人体制

汐風、日和、みぎわは世話人一人体制で行う。あしたばは、全身性障がい方がいるため、時間帯によって2人体制で行った。日和の宿直は週2回で対応をした。日和以外のケアホームの夜間体制は、毎日1名が宿直している。また、支援者、宿直者の不足に伴い、バックアップ職員や、世話人に入ってもらうなど全体でフォローして行った。

3. 健康管理

毎朝のバイタルチェックとして検温を行い、健康管理に留意した。食事に関しては、肥満等の予防も兼ね、栄養バランスなど考えた世話人の手作り料理を提供している。就寝前後、起床前後のエアコンなどの温度調節、管理を行う。

また、時間があるときには、入居者さんと散歩に出かけ、体力維持、運動不足解消を行った。

4. 支援

入居者さんより、外出や交流会の希望が出て、世話人と相談し、それぞれのケアホームで計画を立てて余暇を楽しく過ごしている。また、ケアホームによっては、外出に行かないため、いつもとは違ったものを買ってきてみんなで食事をするなど、各ケアホームに合わせて余暇活動にメリハリをつけて楽しんで生活を送った。

5. その他

各ケアホームの世話人とバックアップ職員と話し合いを行い、問題等の確認をしたが、世話人との情報の共有が難しい面もあり、課題であった。また、バックアップに入ったときに世話人との情報交換なども行った。

世話人の勤務状況や支援方法については、その理念や目的にそって研修等を重ねて理解を得ていく努力が必要であることを感じる面もあった。

また、防災対策については、法人内の各施設等の防火管理者とも協力しながら、大災害などに備えた内容に見直していく必要があり、法人の防災関係者が会議を行い、災害時の対応を検討している。特に、みぎわに関しては、海にも近いこともあり、津波への配慮も考えて検討している。東北大震災、9月の台風による被害は、みぎわの建物被害のみだった。